

令和元年度

新潟市文化財調査概要

新潟市教育委員会



新規登録された高須家住宅 主屋外観（南東から）



新規登録された高須家住宅 土蔵入口外観（南東から）



開花した「鳥屋野^{さかさ}逆ダケの藪」のハチク（淡竹）



勾玉（道正遺跡）^{どうしょう}



大形竪穴住居調査風景（古津八幡山遺跡）^{ふるつはちまんやま}



茶院A遺跡出土木製弓（埋蔵文化財工事立会にて出土）^{ちやいん}

目 次

I	令和元年度文化財調査概要	
1	文化財保護体制と文化財の現況	1
	(1) 文化財保護体制	
	(2) 令和元年度組織図	
	(3) 文化財の現況	
2	一般文化財	3
	(1) 国登録文化財の新規登録	
	(2) 第24期新潟市文化財保護審議会	
	(3) 歴史資料の保存	
	(4) 一般文化財の調査、保護、活用	
	① 名勝旧齋藤氏別邸庭園保存整備検討委員会の実施	
	② 重要文化財（建造物）「旧笹川家住宅」耐震診断事業	
	③ 文化財調査	
	④ 動く市政教室	
	⑤ 新潟市文化財保護調査事業費補助金の交付	
3	埋蔵文化財	12
	(1) 概要	
	(2) 史跡の保存活用事業	
	(3) 文化財センター活用事業	
II	文化財調査報告	17
	国指定天然記念物「鳥屋野逆ダケの藪」の開花	
III	資料	30
1	国・県・市指定文化財、国登録文化財一覧表	
2	区別・ジャンル別文化財件数表	

I 令和元年度文化財調査概要

1 文化財保護体制と文化財の現況

(1) 文化財保護体制

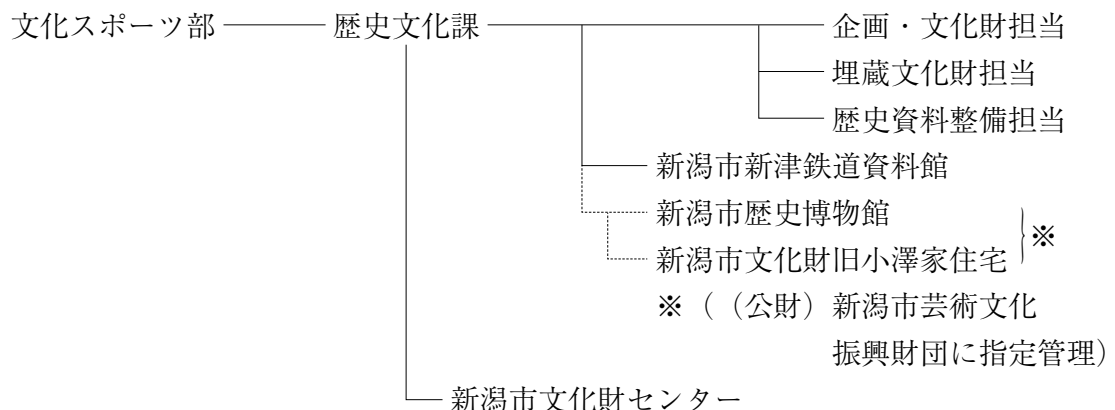
新潟市文化スポーツ部歴史文化課は、課長以下、22名の正職員、9名の非常勤職員で構成されている。

平成11年度に教育委員会生涯学習課で所管していた文化財保護事務を市長部局が補助執行することとなり、歴史文化課が誕生した。その後、平成17年の近隣市町村との合併を経て、平成18年4月1日付で、企画・文化財係、埋蔵文化財係、歴史資料系の3係体制となり、平成19年4月1日付で、歴史資料係を組織拡充し、文書館の開設準備に関する事項、公文書分類センターに関する事項を所管する歴史資料整備室とした。そして、平成23年4月1日付で、歴史文化課所管の新潟市埋蔵文化財センターを埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し活用する施設として、西区木場に新築移転し課相当の機関「新潟市文化財センター」とした。平成24年4月1日付で新津鉄道資料館に関する事項が分掌事務に追加され、施設の管理運営を開始した。平成25年4月1日付で企画・文化財係を企画・文化財担当に、埋蔵文化財係を埋蔵文化財担当に改組した。平成28年4月1日付で歴史資料整備室を歴史資料整備担当に改組した。平成30年4月1日付で新潟市文化財センターを課相当の機関から準課相当の機関に改組した。新潟市文化財センターは、所長以下、12名の正職員、6名の非常勤職員で構成されている。

また、各区役所地域総務課等が各区の文化財に関する業務を所管し、区役所に設置される一部の機関（北区郷土博物館、西蒲区巻文化会館、潟東ゆう学館）も文化財に関する業務を所管している。さらに必要に応じて、地区公民館の職員に各区地域総務課等の併任発令を行い対応している。

市内の歴史文化施設の所管については、新潟市文化財センター、新潟市新津鉄道資料館、新潟市歴史博物館（旧新潟税関庁舎等含）は歴史文化課で所管し、それ以外は区役所が所管している。

(2) 令和元年度組織図



（３）文化財の現況

令和元年度、新潟市内の文化財新規指定及び解除はなかった。

令和２年３月31日現在、市内に存する指定文化財は計323件（国21件、県41件、市261件）、国登録文化財は35件である。

文化財の件数（区別の件数、ジャンル別の件数）と、指定文化財及び登録文化財の一覧表は「Ⅲ 資料」に掲載している。

2 一般文化財

(1) 国登録文化財の新規登録

① 高須家住宅

ア 名称及び員数	高須家住宅主屋・土蔵 2棟
イ 登録年月日	令和元年12月5日
ウ 登録番号	主屋：第15-0504号 土蔵：第15-0505号
エ 所在地	新潟市中央区上大川前通十二番町2724
オ 建設年代	主屋：明治中期／明治後期増築 土蔵：明治中期
カ 構造・形式等	主屋：木造2階建、瓦葺一部金属板葺、建築面積128㎡ 土蔵：土蔵造2階建、金属板葺、建築面積52㎡
キ 登録理由	国土の歴史的景観に寄与しているもの
ク 図版・所見	長岡造形大学 建築・環境デザイン学科 教授 平山育男
ケ 沿革と建物の特徴	

高須家住宅の敷地は上大川前通に東面し、敷地の間口は4間弱、奥行は17間程と細長い形状となっている。この敷地の上大川前通に面して主屋が配され、主屋の背面に土蔵が建つ。建物は当初の切妻妻入形式が、いわゆる撞木型の平面に改変されたことが番付からも確認できる好例である。また、ツボニワでは小屋組の一部が露出するなど、特徴的な構成も確認できる。建物は周囲の景観にもよく馴染み、建築の工法は地域における伝統的な技術を伝承するものとなっている。

主屋は正面側が木造の切妻造棧瓦葺平入2階建、背面側は切妻造金属板葺で一部ツシ2階建の構成で、全体としてはいわゆる撞木造、すなわち丁字型の平面形式となる町屋である。主屋の規模は間口が4間弱で6.39m、奥行は11間程で20.43mとなり、背面に中古の廊下を介して土蔵につながる。

土蔵は主屋の背面に位置し、土蔵本体の規模は間口2間半弱で4.12m、奥行は2間半強で5.12mとなる。覆屋は木造切妻造妻入の形式で間口6.59m、奥行7.94mである。なお、屋根は金属板葺で土蔵と覆屋が一体で、土蔵に対しては置屋根の形式となる。



高須家住宅 主屋外観（東から）



高須家住宅 土蔵入口外観（東から）

(2) 第24期新潟市文化財保護審議会

① 委員名簿

(任期：平成30年6月1日～令和2年5月31日、役職は令和2年3月31日現在)

役職	氏名	所属・職名等	専門分野等
会 長	森田 龍義	新潟大学名誉教授	記念物（植物）
副会長	橋本 博文	新潟大学名誉教授	記念物（史跡） 有形文化財（考古資料）
委 員	岩田 多佳子	新潟市芸術文化振興財団嘱託	有形文化財（絵画・美術工芸品）
委 員	小田 節子	元新潟市立内野中学校教諭	無形民俗文化財（邦楽）
委 員	加賀谷 真梨	新潟大学人文学部准教授	有形・無形民俗文化財
委 員	栗田 裕司	新潟大学理学部准教授	記念物（地質鉱物・石油地質）
委 員	黒野 弘靖	新潟大学工学部准教授	有形文化財（建造物）
委 員	中村 元	新潟大学人文学部准教授	有形文化財（歴史資料〔近現代史〕）
委 員	原 直史	新潟大学人文学部教授	有形文化財（歴史資料〔近世史〕）
委 員	松岡 久美子	近畿大学文芸学部准教授	有形文化財（彫刻・美術工芸品）
委 員	山崎 誠子	日本大学短期大学部准教授	記念物（名勝）

② 会議の概要

今年度は1回の会議を開催した。会議の概要は次のとおりである。

第24期第2回会議

期日：令和元年6月4日（火）

会場：旧第四銀行住吉町支店2階 会議室

内容：【議事】

- ・新規の市指定文化財候補物件について

【報告事項】

- ・天然記念物「鳥屋野逆ダケの藪」の開花現象と保存活用について
- ・平成30年度までに実施した近年の文化財保護関連事業等について
- ・今後の国登録有形文化財候補について

第2回会議では、新規の市指定文化財候補物件について、協議が行われた。次に報告事項として、令和元年度に鳥屋野逆^{さかさ}ダケの藪の開花現象が確認されたことの報告と今後の保存活用について説明・報告した。また、近年の文化財保護関連事業等について、市指定文化財「木造聖観音菩薩立像」の修理事業や、近年の文化財調査内容及び平成30年度古津八幡山遺跡確認調査（第21次調査）成果概要について説明・報告した。今後の国登録有形文化財候補についても、事前の情報提供として、把握している案件について情報提供を行った。すべての案件について、質疑応答及び意見聴取を行った。

(3) 歴史資料の保存

① 歴史情報発信事業

ア 「新潟市歴史資料だより」第27号の刊行

イ 歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

令和元年度は、万代市民会館を会場に全4回開催し、のべ392名の市民から参加をいただいた。各開催日の講師及び講義名は、次表の通りである。

回	開催日	講義名	講 師
第1回	9月7日 (土)	新潟市域の山城と城郭	横山 勝栄 (NHK文化センター新潟教室講師)
		月潟図書館所蔵「文禄2年 年貢請取状」を読む ～中世における月潟地域の開発と領有を考える～	長谷川 伸 (新潟市歴史文化課)
第2回	9月21日 (土)	古町花街の成り立ちと現代的意義	岡崎 篤行 (新潟大学工学部教授)
		明治天皇巡幸関係資料を読む ～新潟市役所文書を中心に～	高野 まりい (新潟市歴史文化課)
第3回	10月12日 (土)	オランダに残る明治期新潟の記録	西田 泰民 (新潟県立歴史博物館専門研究員)
		「幕府北海検使開港場検分復命書」 を読む～新潟が開港地に選ばれた理由を探る～ ※台風の影響で10月19日(土)に実施	田中 良成 (新潟市歴史文化課)
第4回	10月19日 (土)	幕末期新発田藩の地域と海防	高橋 拓也 (新発田中央高校教諭)
		江戸時代の佐潟用水関係資料を読む ～佐潟用水引方仮割証文(赤塚本間家文書)より～	高原 雅樹 (新潟市歴史文化課)



歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の様子

ウ 市政さわやかトーク宅配便をととしての新潟市の歴史の紹介

市民からの要望に応じて、歴史資料整備担当職員が出向いて各地域の歴史などを解説した。令和元年度は、市内4か所で計4回、103名の市民に講義を行った。

エ 自治体史等の販売

『新潟市史』及び『黒埼町史』のほか合併旧市町村の市町村史、及び『図説新潟開港150年史』を販売した。

オ 市内の学校等の歴史学習・総合学習への協力

新潟県警察学校、新潟市立内野中学校等へ職員を派遣し、新潟市や地域の歴史について講義や情報提供を行った。

② 地域資料調査収集事業

ア 歴史資料の所在確認調査

新潟市域における主な民間所蔵資料の現状確認調査、また寄贈等の申し出のあった新出資料の調査を実施している。令和元年度は市内・市外計3か所の調査を実施した。

イ 歴史資料の整理

令和元年度は、中央区上大川前通江口家文書、中央区古町通吉野印刷所文書、中央区浜浦町小池家文書、中央区学校町通古俣家文書、西区五十嵐東伊藤仁太郎家文書、西区五十嵐二の町山下家収集資料、西区赤塚本間家文書、江南区横越市村家文書、三条市佐藤家文書の整理及び目録作成を行った。

ウ 歴史資料の公開

令和元年度は、閲覧200件、複写153件、掲載31件の合計384件の一般利用があった。

エ 寄贈資料の受入

令和元年度は、中央区関屋松波町の江口直禎氏、中央区浜浦町の小池洋平氏、江南区横越中央の市村町子氏、西区五十嵐二の町の山下伸子氏、西区寺地の吉野大昭氏、西区五十嵐東の伊藤圭典氏、西区神山の本間丈夫氏、三条市須戸新田の佐藤恭子氏からの寄贈があった。

③ 歴史的公文書保存事業

ア 公文書分類センターの利用管理

公文書分類センターの収蔵率が高くなったため、保存期間超過文書を廃棄し、一部の文書について収蔵場所をセンター間で移動させるなどの処置を行った。主に味方・岩室・新津公文書分類センターの文書箱の所在について、棚所在図、棚見取り図、文書箱リスト等の作成によって、各課利用の利便を図った。

イ 歴史的公文書の引き継ぎ

平成6年度より、廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を、選別して歴史的公文書として引き継ぎ保存している。令和元年度は、紙媒体で50点、電子媒体で24点、文書保存箱にして23箱を引き継いだ。

ウ 資産税関係文書の整理

横越公文書分類センターで、新規に移管を受けた資産税関係文書（更正図・土地台帳）の整理を行っている。令和元年度はこれまでの整理済み資産税関係文書目録の点検作業を行った。

エ 歴史的学校資料の引き継ぎ

閉校になった学校の廃棄資料の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史的学校資料として引き継いで保存している。令和元年度は、平成28年度に閉校となった栄・湊・入舟・豊照小学校の資料及び木崎小学校で保管していた旧横井小学校の資料を引き継いだ。

④ 加盟団体研修会等への参加

独立行政法人国立公文書館、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、新潟県歴史資料保存活用連絡協議会の研修会に参加した。新潟県歴史資料保存活用連絡協議会の歴史資料保存活用研修、及び岡山県立記録資料館主催の令和元年度岡山県文書保存研修会では、職員が研修講師を務めた。

(4) 一般文化財の調査、保護、活用

① 名勝旧齋藤氏別邸庭園保存整備検討委員会の実施

名勝旧齋藤氏別邸庭園の保存整備事業を実施するに際し、「名勝旧齋藤氏別邸庭園保存整備検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を平成30年度に設置した。事務局を文化スポーツ部歴史文化課とし、庭園及び建造物の学識経験者4名で委員を構成した。令和元年度は、会議を1回開催した（第4回）。

検討委員会の開催経過

	開催日	内容
第1回	平成30年8月10日	○委員長選出 ◆協議事項 （1）事業及び委員会スケジュールと計画書構成案 （2）庭園課題の整理と基本方針 （3）全体計画と庭園課題箇所の個別計画 （4）庭園空間構造分析（視点場等分析） （5）公開活用計画と動線計画 （6）建造物の課題整理と修理方針 ○現地視察
第2回	平成30年10月15日	◆協議事項 整備基本計画素案の確認、検討
第3回	平成30年12月14日	○現地視察 ◆協議事項 （1）建造物に関する整備計画検討 （2）庭園に関する整備計画検討
第4回	令和2年2月25日	◆報告事項 （1）庭園に関する調査結果 （2）建造物に関する調査結果 ◆協議事項 （1）庭園に関する整備検討内容について （2）建造物に関する整備検討内容について ○現地視察

「名勝旧齋藤氏別邸庭園保存整備検討委員会」委員

氏名	所属等	役割
栗野 隆	東京農業大学准教授、 元旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画検討委員会委員	委員長
金出 ミチル	長岡造形大学非常勤講師、同上委員	
松本 恵樹	春秋設計工房代表（作庭者松本亀吉子孫）、同上アドバイザー	
山崎 誠子	日本大学短期大学部准教授、新潟市文化財保護審議会委員	

アドバイザー：文化庁文化財第二課名勝部門文化財調査官 青木達司

オブザーバー：新潟県教育庁文化行政課主任調査員 渡邊祐司



第4回委員会の様子



第4回委員会 現地視察の様子

② 重要文化財（建造物）「旧笹川家住宅」耐震診断事業

ア 文化財の概要

名 称	重要文化財（建造物）旧笹川家住宅（表座敷及び台所ほか全11棟）
構 造 形 式	木造、延床面積1,789.7㎡、一階建及び二階建、銅板葺及び棧瓦葺
建 築 年 代	江戸時代後期〔文政3（1820）年～慶応3（1867）年〕、明治時代
所 在 地	新潟市南区味方216番地
所 有 者	新潟市（南区役所地域総務課）
指 定 年 月 日	昭和29年5月20日、昭和53年5月31日、平成3年5月30日

イ 経 緯

平成27・28年度に策定した『重要文化財旧笹川家住宅保存活用計画』に基づき、今後の耐震補強の方向性を決定するべく、文化庁国庫補助事業として耐震基礎診断を実施した。

ウ 事業内容

- （ア）事業名称 令和元年度 重要文化財旧笹川家住宅耐震診断業務委託
- （イ）事業主体 新潟市（文化庁の国庫補助金を受けて実施）
- （ウ）委託業者 公益財団法人文化財建造物保存技術協会
- （エ）業務内容 構造図確認、構造診断（解析モデル作成、構造検討、構造的な確認）、構造補強比較検討案の作成、報告書作成

③ 文化財調査

令和元年度文化財調査

- ア 年月日 令和元年5月10日（金）
- イ 調査者 新潟市文化財保護審議会 森田龍義委員
調査同行 歴史文化課 古俣光貴
- ウ 訪問先 鳥屋野^{さかさ}逆ダケの藪

エ 概 要

令和元年5月7日（火）に鳥屋野逆ダケの藪の日常管理を委託している鳥屋野一丁目自治会より開花の連絡があったため、開花状況の確認を行った。鳥屋野逆ダケの藪を構成しているハチク（淡竹）という種類の竹はおおよそ120年周期で開花するといわれており、開花は非常に珍しい現象。開花についての詳細及び考察は、「Ⅱ 文化財調査報告」を参照。

また、当調査とは別に、令和元年5月24日（金）に今後の遺伝子調査のために竹のサンプリングを行い、以前から鳥屋野逆ダケの藪について調査・研究を依頼していた秋田県立大学の蒔田明史教授に採取したサンプルを送付した。

④ 動く市政教室

概 要 広聴相談課からの依頼を受け、市民を対象として、テーマに基づいて文化財所在地をめぐる広報活動である。文化財そのものや文化財保護行政についての理解深化をねらいとする。例年1回ないし2回の教室を実施している。

ア 年月日 令和元年9月11日（水）、9月19日（木）

※同じコースで2回実施

イ テーマ 「意外と知られていない!? 魅力的な新潟市内の歴史文化施設をめぐる！」

市内には、多くの歴史文化施設があるが、それらの施設が市民の方々に浸透していない部分がある。今回の動く市政教室で、市内の歴史文化施設及び文化財を見学しながら、各施設の存在を認識してもらうとともに、それぞれの施設の事業内容や文化財について知ることによって、文化財保護行政について理解を深めるとともに、より新潟のすばらしさを感じることを目的とした。

ウ コース 市指定有形文化財旧小澤家住宅 → 文化財センター、市指定有形民俗文化財旧武田家住宅・畜動舎 → 重要文化財旧新潟税関庁舎、国登録有形文化財旧第四銀行住吉町支店、新潟市歴史博物館 → 名勝旧齋藤氏別邸庭園

エ 成 果 動く市政教室では、参加した市民に事後の感想を提出していただいている。それによると、「文化財センター・旧武田家住宅は存在を知らなかった。」「盛りだくさんの内容で、市内のいろいろな施設を、よく知ることができた。」等、市民にあまり浸透していない施設を理解してもらういい機会になったと考えられる。また、他にも「全部魅力的なところばかりで良かった。」「新潟に住んでいながら知らないことが多く、今回改めて新潟の良いところ、豊かなところを認識した。」等多くの肯定的な意見をいただいた。



旧小澤家住宅見学の様子



文化財センター見学の様子

⑤ 新潟市文化財保護調査事業費補助金の交付

令和元年度新潟市文化財保護調査事業費補助金

ア 補助事業名 新潟市指定文化財「行人塚の大櫓」樹勢維持事業

イ 補助事業者 島方集落会長 湯川勝茂

ウ 補助対象経費 165,000円

エ 補助額 82,000円（補助対象経費の50% ※千円未満切捨）

オ 事業期間 令和2年3月23日～3月31日

カ 事業概要

当該文化財は高木・老木であり、枝張りは広く、複数の支え木で枝を支えている状態であるが、支え木と枝の結束部にゆるみが生じていた。支え木が失われると枝の折損を引き起こすため、今後の樹勢維持のために枝を支えている支え木のうち、ゆるみが生じている部分の再固定を行った。

3 埋蔵文化財

(1) 概要

① 埋蔵文化財保護関係事務

新潟市の埋蔵文化財保護行政は、歴史文化課埋蔵文化財担当と文化財センターで所管している。

事務分掌としては、埋蔵文化財担当では開発調整・試掘確認調査・工事立会・史跡に関する事項（史跡古津八幡山遺跡を除く）を担当し、文化財センターでは本発掘調査・保存処理・出土品整理活用（再整理・公開普及・資料展示貸出など）・史跡古津八幡山遺跡に関する事項を担当している。

開発調整では、埋蔵文化財担当が国・県・市の行う公共事業や民間の開発行為・農振除外・農地転用・建築確認・不動産鑑定などに伴う申請・届出・照会等に対する事前審査を行い、「新潟市試掘確認調査基準」（平成19年4月1日）に基づいて試掘確認調査の可否を判断している。

なお、令和元年度の審査件数は10,022件（うち民間事業8,499件、公共事業1,523件）であった。前年度の10,433件と比べ、民間事業では468件の減、公共事業では57件の増となり、全体としては411件の減であった。

審査の結果、文化財保護法上の取り扱いとなったものは、法93条（民間事業）関連124件で昨年度比25件の減、法94条（公共事業）関連29件で昨年度比14件の減であった。

② 試掘確認調査・工事立会

各種開発に先立ち、開発地における遺跡の有無や範囲等を把握し、埋蔵文化財保護協議の資料を得ることを目的に試掘確認調査を実施した。また、工事による遺跡への影響が軽微な場合は工事立会で記録を作成した。令和元年度の試掘確認調査の件数は表1に示した。

なお、令和元年度の試掘調査で5遺跡（No.805 馬堀中組遺跡・No.806 馬堀上組遺跡・No.807 湯頭新田遺跡・No.808 囲内遺跡・No.809 木崎柳原遺跡）が新たに発見された。新潟市内の遺跡数は欠番を除き令和元年度末で770か所となった。

表1 令和元年度の試掘確認調査件数

区名	調査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
北 区	民 間							1				1		2
	公 共													0
東 区	民 間				1			1		1				3
	公 共			1										1
中央区	民 間		1											1
	公 共													0
江南区	民 間	2	5	3		2	1	1		1		4	2	21
	公 共		1		1	1								3
秋葉区	民 間		1			1	1	1		1		2		7
	公 共					2		1						3
南 区	民 間		1	2			1						1	5
	公 共				1									1
西 区	民 間		2						1					3
	公 共				1									1
西蒲区	民 間	2		1			1							4
	公 共			1				2	1		1			5
合 計	民 間	4	10	6	1	3	4	4	1	3	0	7	3	46
	公 共	0	1	2	3	3	0	3	1	0	1	0	0	14
	合 計	4	11	8	4	6	4	7	2	3	1	7	3	60

③ 本発掘調査

令和元年度の本発掘調査は表2のとおりである。

表2 令和元年度の本発掘調査（現地調査）

遺跡名 区 名	原 因	調査面積 (㎡)	主な時代・調査の概要	備 考
そがほしよ 曾我墓所遺跡 江南区	横越地区 雨水調整池建設	3,718	奈良・平安 堅穴建物と推測される堅穴状遺構9基・掘立柱建物2棟などの発見から居住域と考えられる。 須恵器・土師器を中心に多量の遺物が出土した。 現地発掘調査は令和2年度も継続。	発掘調査番号 2019001
どうしょう 道正遺跡 江南区	主要地方道 新潟中央環状線 建設事業	3,000	縄文・古墳・平安 平安時代の土坑や溝などが発見された。 須恵器・土師器を中心に多量の遺物が出土した。 平安時代より下層の古墳時代・縄文時代は令和2年度に調査。	発掘調査番号 2019002

④ 史跡関連調査及び活用事業

古津八幡山遺跡の保存を目的とした確認調査を実施した。これは、遺跡の内容の詳細を確認するための調査である。平成29年度から実施しており、3か年目になる。

活用事業では古津八幡山遺跡での体験イベントや、弥生の丘展示館で企画展および関連講演会などを実施した。詳細は「（2）史跡の保存活用事業」に記した。

(2) 史跡の保存活用事業

以下、史跡古津八幡山遺跡ならびに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場（史跡公園・弥生の丘展示館）にかかる保存活用事業の概要について記載する。なお、各事業の詳細については、新潟市文化財センターが毎年発行している『新潟市文化財センター年報』を参照されたい。

① 委員会・部会

今年度は国史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会および同調査指導部会を9月に1回開催した。また、3月に予定していた2回目の委員会・部会については、新型コロナウイルス感染症対策のため、郵便とメールを利用して報告、委員意見の聴取を行った。

② 古津八幡山遺跡確認調査

昨年度に引き続き遺跡北東域の史跡指定地外において確認調査を実施した（第22次調査）。大形竪穴住居（SI1）の内部構造や、重複する竪穴住居（SI465）との前後関係、周辺域の遺構の状況などについて多くの知見が得られた。調査成果については、10月6日（日）に開催した周辺施設などとの連携イベント「花と遺跡の秋まつり2019」において現地説明会を行ったほか、2月23日（日）に文化財センター主催の遺跡発掘調査速報会で報告した。今後は、大形竪穴住居の構造についてさらに確認するとともに、尾根の北側を中心に遺構の広がりについて把握していく予定である。

③ 整備事業

史跡公園の復元竪穴住居は竣工後10年以上が経過し、経年劣化や風雪等の影響で茅葺屋根の一部に損傷が生じ、内部への雨漏りや湿気の原因になるなど、その安全性や快適性に影響が生じていた。そのため、7棟のうち6棟について茅葺屋根の葺き替え工事を行った。加えて、茅葺屋根の支柱などについて木材の防虫・防腐処理も行った。工事中、前記「花と遺跡の秋まつり2019」で作業の一般公開を実施した。なお、確認調査で出た伐採木を利用して、古墳墳頂に丸太のベンチを追加で設置した。

④ 活用事業

弥生の丘展示館の年間来館者数は49,426名で（（3）文化財センター活用事業表2）、開館初年度の平成27年度に次ぐ多さであった。団体利用は市内の小学校を中心に28団体、971名の利用があった。イベントは13事業（台風等の影響で中止した3事業を除く）を実施し、参加者数は計1,765名であった。弥生の丘展示館での企画展は3回開催し（（3）文化財センター活用事業表3）、期間中、企画展関連講演会を2回、展示解説を5回行い、計154名の参加があった。



大形竪穴住居全景（古津八幡山遺跡）



復元竪穴住居の茅葺屋根
葺き替え作業風景

(3) 文化財センター活用事業

文化財センターでは開館中であればいつでも見学できる展示室を設けているほか、考古学・民俗学に関する講座・イベント等を開催している。令和元年度の来館者数は9,577名であった(表1)。なお、各事業の詳細については、新潟市文化財センター発行の『新潟市文化財センター年報』を参照されたい。

① 団体利用

団体利用は市内の小学校を中心に72団体3,029名の利用があった。特に小学校での利用が多く、令和元年度は31校のべ2,209名であった。6学年では展示室見学のほか火起こしや土偶づくり・勾玉づくりなどの体験メニューを行った。3学年では民具を実際に使用する体験や、旧武田家住宅で地元の語り部ボランティアから昔語りを聞く体験を行った。中学校は総合学習での利用が2件あった。

② 企画展

市内の遺跡について時代や地域の偏りがないようにテーマを設定し、年3回の企画展を開催した(表3)。また、江南区郷土資料館にて館外展示「江南区最新発掘調査展」を開催した。

③ 講座・イベント等

市民に歴史を身近に感じていただくため募集型の講座やイベントを19回開催した。また、個人向けに申し込み不要で勾玉づくりや和同開珎づくりなどが可能な体験コーナーを設けており、のべ1,926名の利用があった。

④ 出前講座・職員派遣

市民団体や学校からの依頼に応じて文化財センター職員が出向き、遺跡や歴史についての解説を行った。令和元年度は、32団体計1,427名の利用があった。中でも学校の利用が多く、小学校は13校885名、中学校1校120名であった。なお、市政さわやかトーク宅配便の制度を利用したものや動く市政教室で行ったものも含む。

⑤ 資料の利用・貸出

文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影を行う特別利用が10件、企画展等での考古資料の短期貸出が2件、文化財センターが保管する写真や報告書掲載資料の掲載依頼が11件あった。

⑥ 現地説明会

発掘調査の成果を一般に公開するための現地説明会を古津八幡山遺跡(10月6日(日)開催)・道正遺跡・曾我墓所遺跡(10月19日(土)開催)で行い、計235名の参加があった。



曾我墓所遺跡現地説明会の様子

表1 令和元年度 文化財センター来館者数・体験メニュー参加者数

月	開館 日数	来館者数（人）				体験メニュー参加者数（人）		
		個人	団体	計	1日平均	個人	団体	計
4	26日	482	324	806	31.0	145	764	909
5	26日	552	532	1,084	41.7	280	971	1,251
6	26日	428	232	660	25.4	83	111	194
7	26日	779	298	1,077	41.4	293	390	683
8	27日	1,370	283	1,653	61.2	661	605	1,266
9	25日	582	532	1,114	44.6	94	625	719
10	26日	421	271	692	26.6	52	124	176
11	25日	556	239	795	31.8	66	10	76
12	23日	372	248	620	27.0	62	25	87
1	24日	427	70	497	20.7	120	55	175
2	24日	371	0	371	15.5	70	0	70
3	25日	208	0	208	8.3	0	0	0
合計	303日	6,548	3,029	9,577	31.6	1,926	3,680	5,606

表2 令和元年度 弥生の丘展示館来館者数・体験メニュー参加者数

月	開館 日数	来館者数（人）				体験メニュー参加者数（人）		
		個人	団体	計	1日平均	個人	団体	計
4	26日	4,079	51	4,130	158.8	1,262	48	1,310
5	28日	5,578	156	5,734	204.8	2,303	148	2,451
6	26日	5,826	98	5,924	227.8	371	71	442
7	27日	6,924	74	6,998	259.2	986	157	1,143
8	28日	11,414	0	11,414	407.6	1,041	0	1,041
9	25日	2,617	387	3,004	120.2	141	567	708
10	26日	2,658	106	2,764	106.3	117	59	176
11	25日	2,613	71	2,684	107.4	247	126	373
12	23日	1,474	28	1,502	65.3	218	28	246
1	24日	2,534	0	2,534	105.6	219	0	219
2	24日	1,287	0	1,287	53.6	148	0	148
3	25日	1,451	0	1,451	58.0	0	0	0
合計	307日	48,455	971	49,426	161.0	7,053	1,204	8,257

表3 文化財センター・弥生の丘展示館企画展一覧

	会 期	企画展タイトル
文化財 センター	平成31年4月16日（火） ～令和元年7月15日（月・祝）	砂丘と遺跡Ⅲ－阿賀北の砂丘上の遺跡－
	令和元年7月23日（火） ～令和元年11月4日（月・祝）	小学生の？からさぐるにいがたのれきし
	令和元年11月19日（火） ～令和2年3月15日（日）	成熟した狩猟・採集社会
弥生の丘 展示館	平成31年4月23日（火） ～令和元年6月2日（日）	古津八幡山遺跡発掘調査速報展
	令和元年6月11日（火） ～令和元年10月27日（日）	弥生時代から古墳時代の大形建物 －古津八幡山遺跡の大形竪穴住居と掘立柱建物を考える－
	令和元年11月6日（水） ～令和2年3月29日（日）	弥生時代後期の北越と北陸・長野との交流 －天王山式土器から考える－

Ⅱ 文化財調査報告

国指定天然記念物「鳥屋野逆^{さかさ}ダケの藪」の開花

森田 龍義

1 はじめに

「鳥屋野逆ダケの藪」（新潟市中央区鳥屋野一丁目）は、竹の一種であるハチク（淡竹）のおよそ20万本と推定される純群落である。枝が枝垂れ状に屈曲する奇態（「逆さ竹」）が多く見られる。浄土真宗の開祖、親鸞聖人がこの地に滞在、布教した時、持っていた竹の杖を地面に挿したところ、それが根付いたものという伝説で知られ、「越後七不思議」の一つとされる。大正11（1922）年に国の天然記念物に指定された。新潟市では平成16年度に「保存管理計画」を策定し（新潟市教育委員会2005年）、平成18年度に指定地の大部分を公有化して整備を進め、平成21年度から新たに公開を開始している。

ハチク（淡竹）は中国原産のイネ科植物で、日本では三大有用竹とされ、モウソウチク（孟宗竹）、マダケ（真竹 別名 苦竹）に次いで広く植栽される。筍を食用とし、材は茶道具、花器、竹竿などの材料として利用される。

令和元（2019）年5月、この「逆ダケの藪」のハチクに花が咲いた。ハチクの開花は120年に一度とも言われる珍しい現象であり、竹林全体が一斉開花し枯死することが知られているので、「逆ダケの藪」においても同様の一斉開花が起き、竹林が消滅してしまうのではないかと心配された。

本調査報告は、「鳥屋野逆ダケの藪」におけるハチクの開花に関する、令和元（2019）年5月～令和2（2020）年6月の調査の記録である。併せて、全国的なハチクの開花状況、開花後の竹林の将来予想についての専門家の見解を紹介し、「逆ダケの藪」の保全管理に役立てたい。

2 調査方法

開花位置確認調査は、開花確認後2年目にあたる令和2（2020）年6月24日～29日に実施した。調査地は開花が確認された指定地の西端（西門付近）の区域である（図1）。「逆ダケの藪」内には、平成19年度の委託事業によりGPSを用いて黄色の杭（グリッド）が設置されているので、この杭を基準として調査を行った。

杭と杭の間隔は多少不揃いで約10mである。杭と杭をロープで結ぶと概ね10m×10mの枠ができるが（図1）、さらにその内部を16等分した方形枠において、ロープから開花稈の根際までの距離を計測することにより、開花稈の位置をマッピングした。ちなみに、タケ類では幹に当たるものを「稈^{かん}」と呼ぶ。

ハチクは6月頃に新しいシュート（タケノコ）を生じ、一気に伸長して林冠に達する。「林冠」とは、葉や枝の集まりから構成される林の上層部を“林の冠”に見立て

た呼び名である。林冠に達した稈を特に呼ぶ呼称はないようだが、本稿では“林冠竹”と呼ぶ。また、後に詳しく述べる令和2（2020）年に開花した細く、丈の低い稈を“再生竹”と呼ぶ。開花が確認された林冠竹については、根際から約10cm上の稈径を計測、また開花した再生竹は稈長を計測した。

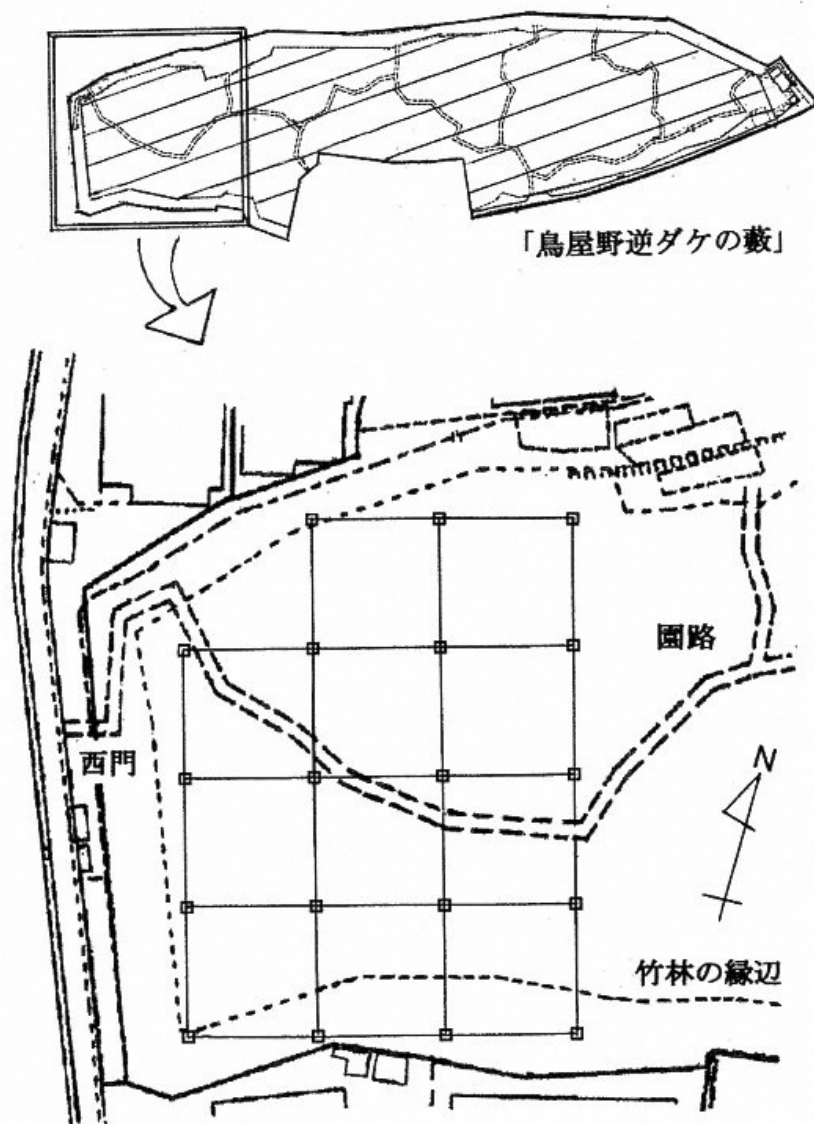


図1 調査地 □は平成19年度委託事業により設置された杭 杭と杭の間隔は10m

3 令和元年における開花状況

令和元（2019）年5月7日、日常管理を委託している鳥屋野一丁目自治会（逆ダケの藪愛護の会）の阿部文江氏から開花の第一報が寄せられた。開花が発見された稈は園路沿い（図2のa1、a2）に位置する3本である。5月10日、筆者は新潟市の担当者及び阿部氏とともに現地確認し、a1、a2の開花を確認。阿部氏が発見していた新たな開花稈6本（図2のb及びc）を確認した。

図2-a1の開花稈はともに林冠竹である。稈径は標準的なサイズで40mmと50mmであった（写真1）。a2の開花稈は高さ約5mで、林冠に達していない（稈径

15mm)。

図2-bの開花稈は“再生竹”と考えられるもので、稈は細く（稈径9mm）、地表面に匍匐していた（稈長は195cm）。

図2-cは竹林の南端部に5本がまとまっていた。稈径はそれぞれ25mm、25mm、35mm、40mm、45mmである。稈径25mmの細い2本のうち1本は折れており稈長85cmであった。もう1本は通常の林冠竹よりやや低い。残りの3本は林冠竹であり、多数の花穂が林冠部に鈴なりに着いているのが見られた（写真2）。

園路をはさんだ調査区の北側と南側には、枝の多くが枯れ、葉の大部分が落ちた稈（緑色）が、多数存在していた（図2の白丸。北側と南側にそれぞれ約20本。「枯れ竹群」と呼ぶ）。これらに花の痕跡は確認されなかったが、前年（2018年）に開花した稈の可能性が高い。

ちなみに、令和元（2019）年に開花した花に結実は認められなかった。

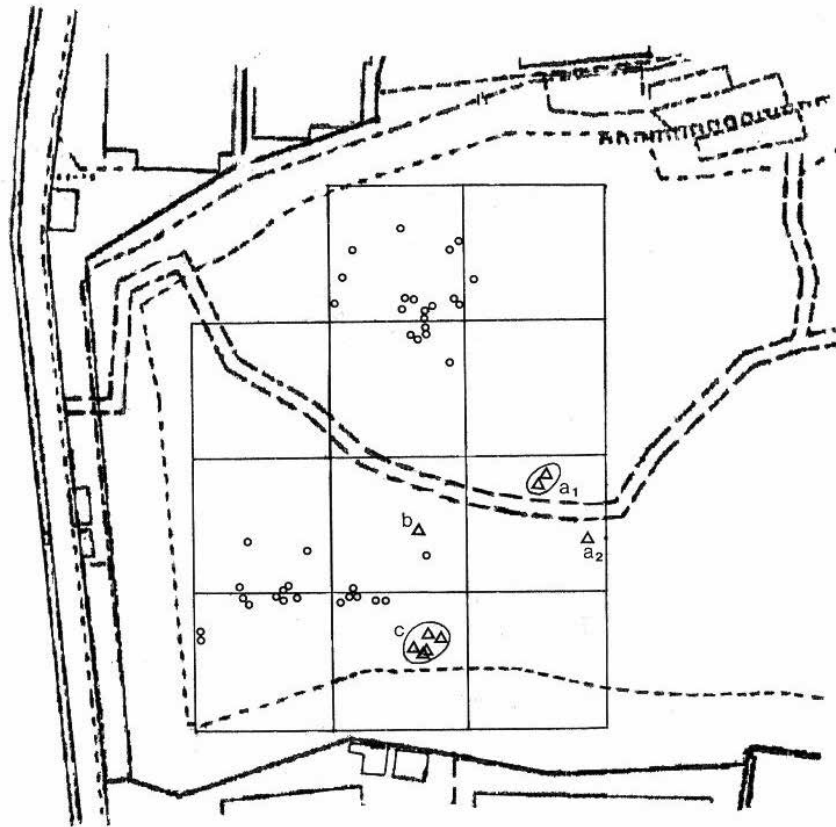


図2 令和元（2019）年における開花状況
△開花した稈の位置 ○平成30（2018）年あるいはそれ以前に開花した可能性のある稈



写真1 図2-a1におけるハチクの花（阿部文江氏撮影）



写真2 図2-cにおけるハチクの開花状況（新潟市歴史文化課撮影）

4 令和2年における開花状況

(1) 令和元年開花稈の再度の開花

令和2（2020）年5月29日阿部文江氏から通報があり現地確認したところ、令和元（2019）年の開花稈が再び開花しているのが確認された。開花したのは、図2のa1の1本、b、cの2本の稈である。bの稈は緑色であるが、a1とcでは稈は黄緑色、枝は黄色に変色し、葉はついていない。茶色に変色した前年の花穂の間に、ごくわずかなではあるが、緑色の花穂と下垂する雄しべが確認された。同じ稈が2年にわたり開花することが判明した。

(2) “再生竹”の開花

6月3日、阿部氏から「整備業者から花が咲いている竹があるとの連絡があった」との通報があった。現地確認したところ、調査地の南側の区域に細く丈が低い稈が花を着けていた。6月14日、再び阿部氏から連絡があり、今度は調査地の北側に、同様の細い稈の開花が確認された（写真3-1、3-2）。小林幹夫氏（宇都宮大学名誉教授）と小林慧人氏（京都大学大学院農学研究科博士課程）に問い合わせたところ、竹類が開花した後に生じる小形の稈で、竹の研究者の間で“再生竹”と呼ばれているもののことであった。

6月下旬に杭（グリッド）を基準とした調査を実施した結果、園路の南側では6か所、北側では2か所にパッチ（斑点）状に集合して分布していた（図3）。各パッチは稈が1本のみの場合もあるが（e、i、j）、北側のkでは26本あった。表1にパッチごとの稈数、稈の長さを示す。

表1 パッチごとの稈数と稈の長さ

パッチ	稈数	稈長の最小値・最大値（cm）	稈長の平均値（cm）
d	13	97 - 197	140.8
e	1	174	
f	8	148 - 196	169.0
g	6	117 - 207	145.3
h	6	155 - 271	211.7
i	1	189	
j	1	（61）折れ	
k	26	119 - 268	156.8

“再生竹”の出現とその開花は、開花した林冠竹と密接な関係がありそうである。最も顕著な例は、図3-g（図2-cから150cm）とj（図2-a1から60cm）であるが、図3-d、e、fは図2の南側の「枯れ竹群」の周辺に出現し、図3-kは図2の北側の「枯れ竹群」と分布がほぼ一致する。

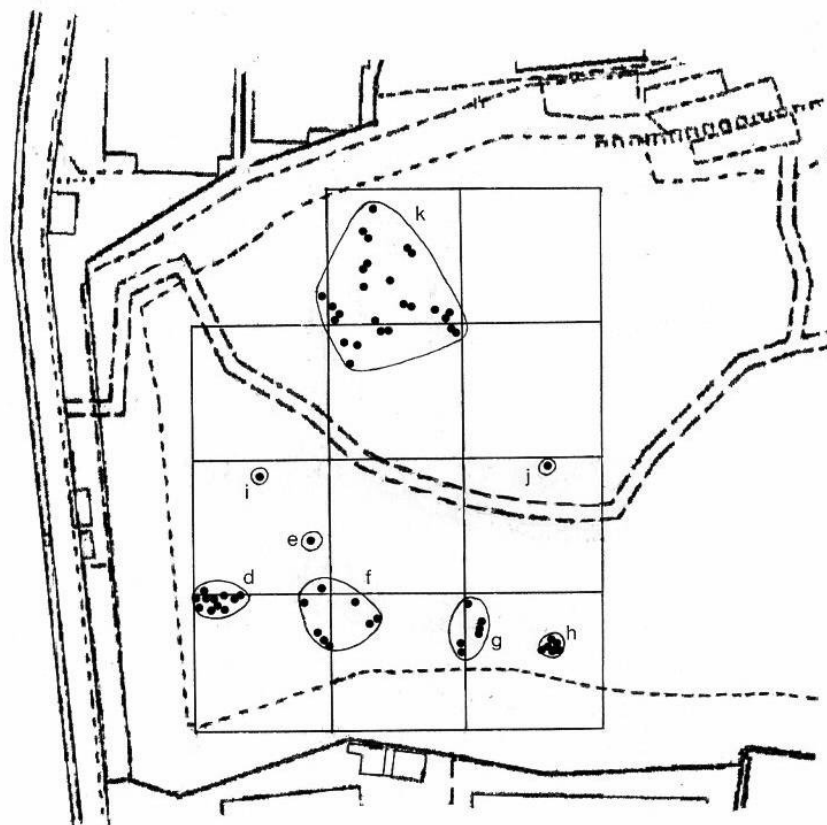


図3 令和2（2020）年における開花状況
●開花した“再生竹”の位置



写真3-1 開花する“再生竹”



写真3-2 開花する“再生竹”

(3) “再生竹”の特徴

“再生竹”の特徴について述べる（図4）。①稈は硬いが細く、径9mmが1本、8mmが2本あったが、大部分は径5～7mmであった。②ほとんどすべては先端部が枯れているので正確ではないが、稈の長さは1～3mだった。③側枝が相対的に長い。図4に示した稈では、181cmの主稈につく側枝が120cmあった。④主稈や側枝は大きく湾曲したり激しく屈曲し、先端部が接地しているものが多い。極端なものは横に倒れ、地表を這う。⑤葉は小さく、最大のもので長さ5cm、幅9mmだった。

開花の最中の令和2（2020）年6月下旬、新たな“再生竹”が盛んに生じるのが目撃されたので、本年開花した“再生竹”も昨年6月頃に生じ越冬したものと考えられる。7月5日には図5に示すような屈曲した新“再生竹”が観察された（長さ154cm、径6mm）。葉はほとんど展開していないが、細い稈が自身の重さを支えきれず湾曲したものであろう。稈はすでに硬く、屈曲した姿はこのまま維持されると推測される。

なお、「逆ダケの藪」における開花“再生竹”は本調査区以外では生じていない。また、調査区の“再生竹”はすべてが開花していた。

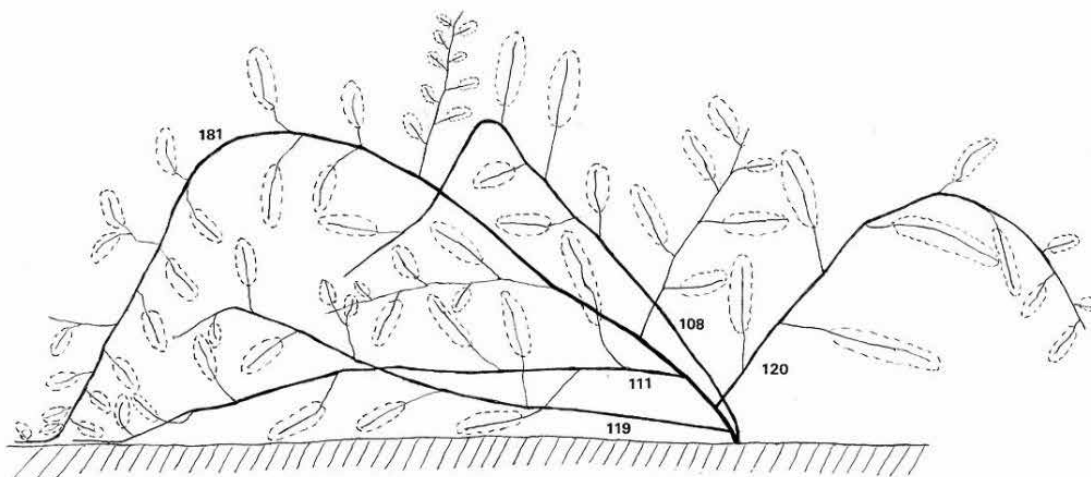


図4 “再生竹”の一例 数字は主稈及び主な側枝の長さ (cm)
点線で囲んだ部分は花がついていることを示す (6月25日記録)

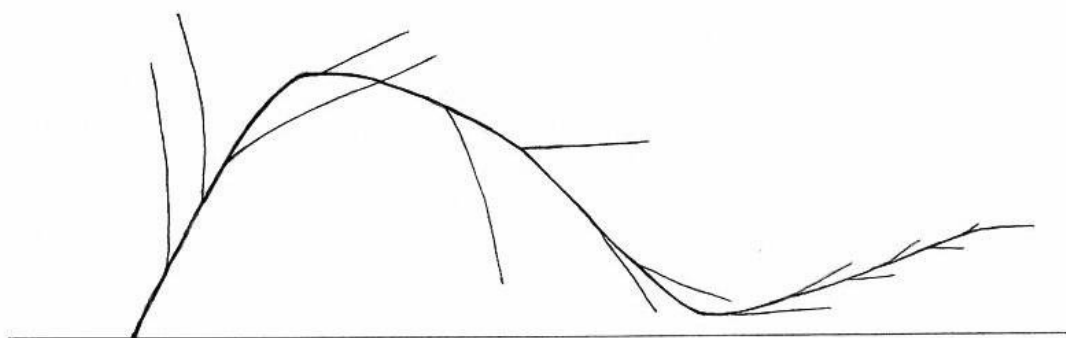


図5 令和2 (2020) 年6月末に発生した“再生竹”の一例
葉は未展開 稈の長さは154cm (7月5日記録)

(4) ハチクの花

イネ科植物であるハチクの花は、花粉を風により雌しべに運ばせる風媒花なので、ミツバチなどに花粉を運ばせる虫媒花と違い、美しい花卉があるわけではなく、花であることが理解しにくい。緑色の鱗片の間から長い花糸が垂れ、その先に黄色の細長い葯をつけた雄しべが見えると、はじめて開花したことがわかる。

『牧野新日本植物図鑑』（北隆館）のハチクの記載を手がかりに、“再生竹”の花を観察した。林冠竹に着く花は、『牧野図鑑』では「緑色の花穂は枝先に束状に密生し」とあるが、“再生竹”の花は、少数の花穂が通常の葉とともにつき密生した束状にはならない。

写真4は1個の花穂（小穂^{しょうすい}）である。この場合は2個の小花からなり、下の小花が咲いている。小花をスケッチしたものが、図6である。護穎（b）と内穎（a、先端が2裂）と呼ばれる2枚の鱗片に包まれているが、それが開くと、雄しべと雌しべが現れる。雄しべは白い糸状の花糸（c）と細長い黄色の葯（d、長さ8mm）からなる。この段階では葯は花粉を放出していない。雄しべは3本。この後急速に伸び、下垂して花粉を放出し風により飛ばすのである。

注意深く観察すると、糸くずのような白い雌しべが見える。図の右側に雌しべの拡大図を示す。先端部で3つに分岐し、細かい毛のある部分が花粉を受粉する柱頭（e）である。雌しべは基部に向かって次第に太くなり、基部にトックリ型の子房（g）がある。受粉に成功すれば、子房は果実となり、中に1個の種子が生じる。

イネ科の花には、鱗皮^{りんぴ}という特殊なものがある。花卉の痕跡ともいわれ、3枚の鱗皮（h）が確認できた。



写真4 “再生竹”の小穂 葉の変形物に包まれた2個の小花があり、下側の1個が咲き始めている。黄色い雄しべが3個ある。わかりにくいですが、雌しべの先端部が糸くずのように見えている。

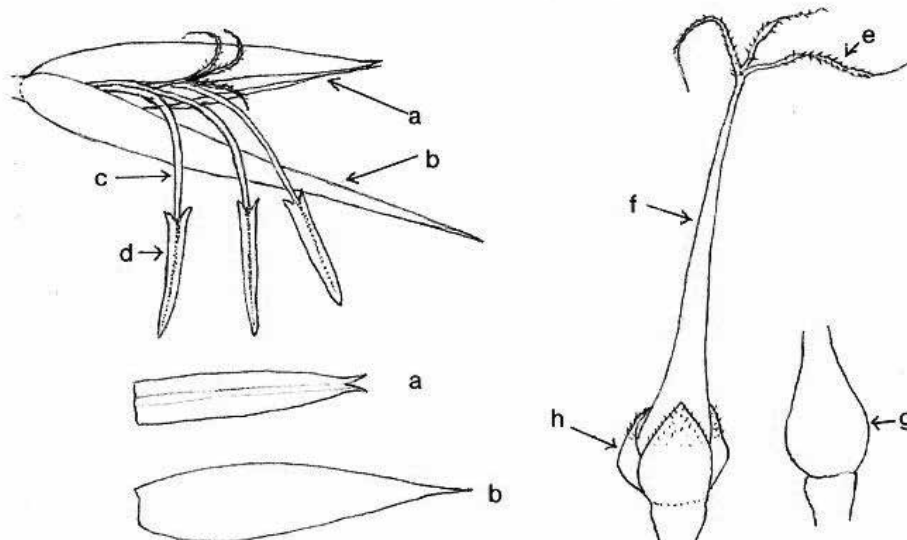


図6 ハチクの花 左：1個の小花 a.内穎 b.護穎 c.d.雄しべ（c.花糸 d.葯）
右：雌しべ e.柱頭 f.花柱 g.子房 h.鱗皮（森田原図）

令和2（2020）年における“再生竹”の花は6月3日に最初に確認され、7月4日においてもわずかに咲いていたので、花期が1ヶ月以上続いたことになる。結実は2年間を通じて、全く見られなかった。雄しべ、雌しべともに異常はなく、結実しなかった理由は不明であるが、強い自家不和合性（同じ株の花粉では種子ができない性質）があるのではないかという小林幹夫氏の意見（私信）は傾聴に値する。自家不和合性が不稔の原因だとすると、今回開花した林冠竹及び再生竹はすべて同一株（クローン）ということになる。

5 ハチクの開花は予告されていた

（1）全国の開花状況

近年、全国各地からハチクの開花の情報が伝えられている。高知県（2000年）、京都府（2008年、2013年）、香川県（2014年）、島根県（2016年）、兵庫県（2016年）、埼玉県（2017年）、静岡県（2017年）、愛知県（2018年）などである（渡邊 2017年）。令和元（2019）年には、香川、静岡、埼玉、千葉の各県の開花情報がニュースとなり、静岡県南伊豆町では、ハチク林が3000m²にわたって全面開花したと報じられた。“竹林景観ネットワーク” HPには京都府、宮崎県、三重県等の令和元（2019）年開花情報が載っている（小林 2020年）。

なぜハチクの開花がニュースになるかというと、竹類が「長寿命で一回繁殖性、しかも広範にわたって同調的に開花（一斉開花性）」し（蒔田ほか 2010年）、その開花自体が稀であることに加え、開花後に竹林全体が枯死することもある大規模な現象だからである。三大有用竹のひとつであるマダケ（ハチクと同属）の開花周期はほぼ120年と推察され（渡邊 2017年）、「昭和四十年代から五十年代にかけて日本はおろか、世界中のマダケが一斉に開花枯死に至ったことが確認されている」（渡邊 2007年）。

（2）ハチクの開花周期

竹類の開花について植物学者として最初に論じたのは川村清一博士（1911年）である。この論文はハチクの開花について次のように述べている。

「苦竹（筆者註：マダケの別名）、淡竹の如き栽培竹が開花枯死することは吾人の多く経験せざる所にして（中略）近年に至るまで絶えて無かりしものなり。しかるに近年再び淡竹林に発生し始め明治三十六、七年の頃よりようやく世人の認むる程度となり。その後逐年蔓延して明治四十年前後においてその病害は最も猖獗を極めて本邦全土にわたり、淡竹及びその変種に属する黒竹、雲紋竹等のある地方はほとんど全部これが被害をこうむらざるなき有様となり、現今においてはそのわずかに残れるものが遅れて開花しつつあるを見るのみなり。かくの如く明治四十年頃をほぼ中心として前後数年の間にわが邦の淡竹林はこの恐るべき開花病の襲う所となりて惨害をこうむりたるなり」（川村 1911年 筆者註：片仮名を平仮名に変更）。

そして古文書の開花記録によりハチクに開花周期があり、それは60年あるいはその倍数の120年であると推測したのである。最後の開花は明治41（1908）年前後とされているが、60年後の昭和43（1968）年頃に開花は見られなかった。

渡邊（2017年）はハチクの次期開花を、明治41（1908）年の120年後の2028年と推察し、「したがって、今後10年余でハチクが開花最盛期を迎える可能性があり、近年のちらほら咲きはその前兆ではないか」と述べている。

（3）「逆ダケの藪」の過去の開花記録が発見された

ハチクの一斉開花現象を研究している小林慧人氏は、筆者の問い合わせを契機として「逆ダケの藪」の貴重な開花記録と思われる文献を発見した。

竹林家・坪井伊助の著作『実験竹林造成法』（1913年）に付録「日本における竹の分布」が掲載されている。

小林氏は、新潟県“見真大師の逆竹”の項に、「自然枯」（筆者註：「じねんこ」とルビがふられている）と記述されていることに注目した。“自然枯”が竹の世界では「開花→枯死」を意味するというのである。

「縁起中にある竹林は、同村大字鳥屋野字旧跡浦、竹林二筆反別九反一畝廿五歩は、今も西方寺住職の所有に係り、世人は之を全部逆竹及び染分竹の如く思惟せるも、予の見るところ普通の淡竹林にして何ら異常ある竹を見ず、唯明治卅九年に視察せる際には、点々自然枯の被害あるを見受けたのみである」（『実験竹林造成法』）

まさに当「逆ダケの藪」の記述に間違いはない。「自然枯」については筆者も川村（1911年）に「竹類が開花に依りて枯死することは、古昔より知られたる所にして自然枯又は稀に十年枯と称し」と書かれていることを確認した。

明治39（1906）年に枯れ竹を見たというのだから、開花はその数年前に起きたものと推察され、川村（1911年）が記録した明治36年～41年（1903年～1908年）頃という前回の全国的開花期に「逆ダケの藪」も開花したことになる。令和元（2019）年の開花は、約115年目に当たる。

6 「逆ダケの藪」の今後

（1）今後の開花の見通し

令和元（2019）年の開花は、「逆ダケの藪」の西側の面積にして三分の一以下でのみ起こり、しかも開花が確認された林冠竹はわずか5本のみで、約40本の「枯れ竹群」を加えても、開花した林冠竹はごく一部であった。令和2（2020）年に見られた再生竹の開花は、前年あるいは前々年の林冠竹の開花に伴う副次的な現象であり、開花した林冠竹と再生竹が地下茎でつながる同一クローンである可能性が高い。また、この2年間、6月には「逆ダケの藪」の至る所で新しい筍が盛んに生じ新林冠竹となったことも、この藪が複数のクローンから構成されることを示唆しているのかもしれない。

明治39（1906）年に坪井伊助が見たという「点々自然枯」という記述が約115年前のハチクの開花・枯死を意味するとしても、それは竹林全体に及ぶものではなく、その一部に「点々」と起こった現象であることを示しているのではないだろうか。

それゆえ「逆ダケの藪」では、竹林全体が一斉開花し一斉枯死するというような劇的なシナリオではなく、部分開花・部分枯死が順次進行するような穏やかな形態をとるのかもしれない。

この仮説が正しければ、今後数年から十年間、「逆ダケの藪」のあちこちで、規模の大小はあるにしても部分的に林冠竹の開花・枯死→翌年の再生竹の開花が繰り返される可能性が高い。

しかし渡邊（2017年）が主張するように、今回の小規模開花を2028年の一斉開花の前兆と考えるシナリオも否定することはできない。陶山ほか（2010年）は、「一斉開花年の前後にしばしば小規模な開花が見られ」るが、「それらの小規模な開花を一連の開花現象ととらえるべき」と考え、「走り咲き」を“一斉開花前小規模開花”、“咲き遅れ”を“一斉開花後小規模開花”と呼ぶことを提案している。今回記録した開花現象が“一斉開花前小規模開花”に相当する可能性もあり、「逆ダケの藪」全体に及ぶ一斉開花が数年後に起こることも想定しておく必要がある。

（2）ハチク林の再生過程

竹林全体に及ぶ一斉開花が起こった場合、「逆ダケの藪」はどのような状況になるのだろうか？林冠竹は枯死し、枯れ竹のみの荒廃した風景が現出することは避けられない。「逆ダケの藪」は永遠に消失してしまうのだろうか。

しかし、竹林家や竹類の研究者の間では、竹林は開花・枯死しても再生すると考えられている。例えば、川村（1911年）は次のように述べている。

「開花の為、一旦枯死したる竹林といえども、地下の部分には尚生活力を失わざる所あれば、翌年より小笹を生じ、逐年良稈を発し、遂に六、七年の後には元の如き竹林に回復することは、開花枯死せる竹林において常に見る所の現象にして」（川村1911年、筆者註：片仮名を平仮名に変更）。

近野（1937年）によると、ハチクと同属のマダケ林の再生過程は次のようである。

- ① 林冠竹の開花後、盛んに著しく細い小竹を発生する。これを“^{かいふくざさ}恢復笹”と呼ぶ（筆者註：本稿では“再生竹”）。初年度に発生した“恢復笹”はほとんど全部開花するが、2年目から年を追って不開花のものを増加する。
- ② “恢復笹”が新しい地下茎を出すと、普通の形態の稈である“恢復竹”を生じる。“恢復竹”は開花することなく、更に地下茎を伸ばし、年を追って太い稈を発生する。
- ③ “恢復笹”の刈り払いを主張する論者もいるが、竹林の再生に最も重要なものである。

一斉開花・枯死したマダケ林において、生き残った地下茎から生じた細い稈から竹

林が再生したことは、Numata ほか（1974年）においても報告されている。また、マダケ属の一種のモウハイチクにおいて、実生からの再生と残存する地下茎からの新稈の発生による栄養繁殖的再生という二つの過程により、開花後7年目までに稈のサイズは開花時と同じレベルに回復したと報告されている（Hisamoto & Kobayashi 2013年）。

これらの例はハチク林の再生過程を考える上で十分参考になるが、ハチクの場合は120年に一度という稀な現象が現在進行中なのであり、未知の領域なのは言うまでもない。「逆ダケの藪」においても、今後の経過を注意深く観察してゆく必要がある。

本調査にあたり御協力いただいた阿部文江氏（逆ダケの藪愛護の会）、小林幹夫氏（宇都宮大学）、小林慧人氏（京都大学）、新潟市歴史文化課の古俣光貴氏、田部彩葉氏に感謝申し上げる。

引用・参考文献

- 川村清一 1911年. 竹類開花ノ原因ニ就テ. 植物学雑誌 25: 237-269.
- 小林慧人 2020年. ツイッターを用いた竹情報の収集 ～「竹の花」ツイートの収集事例～. 竹 142号: 24-27.
- 小林幹夫 2017年. 『原色植物分類図鑑 日本のタケ亜科植物』 北隆館
- 近野英吉 1937年. 竹林の開花現象と其恢復策. 日本林学会誌 20: 1-9.
- 陶山佳久・鈴木準一郎・蒔田明史 2010年. タケ・ササ類の一斉開花に関する一考察. 日本生態学会誌 60: 97-106.
- 竹林景觀ネットワーク <http://balanet.bambusaceae.net/> タケ類の開花情報/
- 坪井伊助 1913年. 『実験竹林造成法』 岐阜県山林会
- Hisamoto Yoko & Kobayashi Mikio 2013. Flowering habit of two bamboo species, *Phyllostachys meyeri* and *Shibataea chinensis*, analyzed with flowering gene expression. *Plant Species Biology* 28: 109-117.
- 蒔田明史・石澤進 2006年. 天然記念物「鳥屋野逆ダケの藪」の現況と保全. *Bamboo Journal* No.23: 42-51
- 蒔田明史・鈴木準一郎・陶山佳久 2010年. Bamboo - その不思議な生活史. 日本生態学会誌60: 45-50.
- 牧野富太郎 1963年. 『牧野新日本植物図鑑』 8版 北隆館
- 新潟市教育委員会 2005年. 『天然記念物「鳥屋野逆ダケの藪」保存管理計画報告書』
- Numata Makoto, Ikushima Isao & Ohga Nobunori 1974. Ecological aspects of bamboo flowering. *Ecological studies of bamboo forests in Japan X III. Botanical Magazine Tokyo* 87: 271-284.
- 渡邊政俊 2007年. 藪医者と竹の開花. 竹 102号: 11-13.
- 渡邊政俊 2017年. 最近見られるハチクの開花は一斉開花の前兆か? 竹 145号: 5-8.

Ⅲ 資 料

1 国・県・市指定文化財、国登録文化財一覧表

(1) 国・県・市指定文化財（令和2年3月31日現在）

区分	No	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
国	1	有	建	旧笹川家住宅	11棟	S29.3.20 S53.5.31 H3.5.30	南区味方	新潟市	文政年間
国	2	有	建	新潟県議会旧議事堂 附 棟札2枚	1棟	S44.3.12	中央区一番堀通町	新潟県	明治15年
国	3	有	建	旧新潟税関庁舎 附 棟札1枚	1棟	S44.6.20	中央区緑町	文部科学省・新潟市	明治2年
国	4	有	建	種月寺本堂 附 棟札2枚	1棟	H1.9.2	西蒲区石瀬	種月寺	元禄12年
国	5	有	建	萬代橋	1基	H16.7.6	中央区万代から中央区下大川前通・ 中央区川端町間	国土交通省	昭和4年
国	6	有	絵	絹本着色不動明王二童子像	1幅	S27.7.19	中央区沼垂東	法光院	鎌倉後期
国	7	有	彫	木造地藏菩薩半跏像	1軀	S12.5.25	秋葉区小須戸	茂林寺	南北朝期
国	8	有	工	彩磁禽果文花瓶 板谷波山作	1口	H18.6.9	中央区東大通	公益財団法人 敦井コレクション	大正15年
国	9	有	書	雪村友梅墨跡梅花詩	1幅	S35.6.9	江南区沢海	一般財団法人 北方文化博物館	南北朝期
国	10	有	考	越後国菖蒲古墳経塚出土品	一括	S37.2.2	中央区柳島町 歴史博物館内	金仙寺・新潟市	平安後期
国	11	民	有民	金刀比羅神社奉納模型和船	28点	S40.6.9	中央区西既島町	金刀比羅神社	江戸後期～明治中期
国	12	記	史	菖蒲塚古墳		S5.4.25	西蒲区竹野町	金仙寺ほか・新潟市	古墳前期
国	13	記	史	旧新潟税関		S44.6.20 S55.2.19 H30.10.15	中央区緑町	文部科学省・新潟市	明治2年
国	14	記	史	古津八幡山遺跡		H17.7.14 H23.2.7	秋葉区金津、秋葉区古津、 秋葉区蒲ヶ沢	新潟市他	弥生～古墳
国	15	記	史	新津油田金津鉱場跡		H30.10.15	秋葉区金津	新潟市・個人	明治初期～平成8年
国	16	記	名	旧齋藤氏別邸庭園		H27.3.10	中央区西大畑町	新潟市	大正9年
国	17	記	名	白山公園		H30.10.15	中央区一番堀通町	財務省・新潟市	明治初期
国	18	記	天	鳥屋野逆ヶケの藪		T11.10.12	中央区鳥屋野	新潟市・個人	
国	19	記	天	月潟の類産ナシ	1本	S16.11.13	南区大別當	個人・新潟市	樹齢約200年
国	20	記	天	ヒシクイ		S46.6.28	新潟県	新潟県	県全域
国	21	記	天	マガン		S46.6.28	新潟県	新潟県	県全域
県	1	有	建	諏訪神社本殿	1棟	S61.3.28	南区味方	味方自治会	慶長15年再建
県	2	有	絵	渭城柳色 大雅筆 附 大雅書「渭城柳色」	1幅	S33.3.22	中央区東大通	公益財団法人 敦井コレクション	延享元年
県	3	有	絵	絹本着色三千仏図	3幅	S44.3.25	中央区沼垂東	法光院	寛正7年
県	4	有	絵	絹本着色慈恩大師像	1幅	S47.3.28	中央区沼垂東	法光院	鎌倉末期
県	5	有	彫	木造菩薩立像	1軀	S27.12.10	中央区西堀通	瑞光寺	平安前期
県	6	有	彫	木造薬師如来坐像	1軀	S41.3.18	東区松崎 薬師庵内	法光院	平安後期
県	7	有	彫	木造阿弥陀如来立像	1軀	S52.3.31	中央区柳島町 歴史博物館内	西永寺・歴史博物館	平安後期
県	8	有	彫	銅造観音菩薩立像	1軀	H21.3.24	西蒲区赤館	遍照寺	奈良
県	9	有	彫	木造伝島山重宗夫妻坐像	2軀	H21.3.24	中央区長嶺町	蒲原神社	建武元年
県	10	有	工	太刀（無銘）	1口	S40.4.7	江南区沢海	一般財団法人 北方文化博物館	鎌倉末期
県	11	有	書	南英謙宗墨跡書籍	22冊	S29.2.10	西蒲区石瀬	種月寺	室町後期
県	12	有	書	長善館学塾資料	一括283点	S42.3.25	中央区女池南 県立文書館内	新潟県立文書館	江戸後期
県	13	有	書	桂家国学関係資料	一括508点	S42.3.25	中央区女池南 秋葉区中村 県立文書館	個人	江戸後期
県	14	有	古	堀直奇文書	56点	S39.3.22	西区五十嵐 新潟大学附属図書館内	国立大学法人 新潟大学	江戸初期
県	15	有	古	市島家文書	16,528点	S47.3.28	中央区女池南 県立文書館内	新発田市・ 新潟県立文書館	江戸～昭和期

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
県	16	有	古	渡部家文書	2,582点	H12.3.24	中央区女池南 県立文書館内	個人・ 新潟県立文書館	江戸中期～明治期
県	17	有	考	甕籠鏡（越後国菟蒲塚古墳出土）	1面	S37.3.29	東京国立博物館	個人	古墳前期
県	18	有	考	木崎山出土地鎮具	一括	S59.3.27	秋葉区金津 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	鎌倉
県	19	有	考	的場遺跡出土品	一括	H8.3.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	奈良・平安
県	20	有	考	五丁歩遺跡出土品	一括1,394点	H13.3.23	秋葉区金津 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	縄文中期
県	21	有	考	浦廻遺跡出土品	一括2,160点	H16.3.30	西区木場 文化財センター内	新潟市	鎌倉後期
県	22	有	考	上ノ平遺跡・吉ヶ沢遺跡出土品	一括1,103点	H17.3.25	秋葉区金津 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	後期旧石器時代
県	23	有	考	青田遺跡出土品	一括2,076点	H21.3.24	秋葉区金津 県埋蔵文化財センター内	新潟県	縄文晩期
県	24	有	考	滝寺窯跡群・大貫窯跡群土品	一括1,012点	H23.3.22	秋葉区金津 県埋蔵文化財センター内	新潟県	平安時代
県	25	有	考	南赤坂遺跡出土品	110点	H25.3.26	西区木場 文化財センター内	新潟市	古墳前期
県	26	有	考	余川中道遺跡出土品	255点	H26.3.25	秋葉区金津 県埋蔵文化財センター内	新潟県	古墳中期～後期
県	27	有	考	六反田南遺跡出土品	1,202点	H31.3.22	秋葉区金津 県埋蔵文化財センター内	新潟県	縄文中期
県	28	有	歴	学塾三餘堂関係資料 附 印章類125類	一括	H9.3.28 H11.3.30	中央区女池南県立図書館・ 東区東中野山	新潟県立図書館・ 個人	江戸～明治
県	29	有	歴	新潟市上水道敷設関係資料	一括258点	H15.3.28	中央区学校町通 歴史文化課内	新潟市	明治中期～昭和初期
県	30	有	歴	亀田町上水道敷設関係資料	一括4点	H15.3.28	江南区茅野山 江南区郷土資料館内	新潟市	昭和初期
県	31	有	歴	新潟奉行川村修就関係資料	1,859点	H25.3.26	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	江戸後期
県	32	有	歴	新潟県近代行政文書	2,465点	H29.3.21	中央区女池南 県立文書館内	新潟県	明治期～大正期
県	33	民	有民	大船絵馬	1面	S44.3.25	中央区一番堀通町	白山神社	嘉永5年
県	34	民	風	越後の風合戦習俗	3	H27.3.24	南区白根・西白根 三条市上須頃 見附市今町・長岡市中之島	白根風合戦協会・ 三条風協会・ 今町中之島 大風合戦協会	江戸期
県	35	記	史	的場遺跡		H6.3.29	西区的場流通	稲荷神社・新潟市	奈良～平安
県	36	記	史	緒立遺跡		H6.3.29	西区黒島字川根湯・ 西区緒立流通	緒立八幡宮・新潟市	奈良～平安
県	37	記	名	浄専寺庭園		H2.3.30	西蒲区石瀬	浄専寺	文化～文政年間
県	38	記	天	高森の大ケヤキ	1本	S31.3.23	北区高森	稲荷神社・ 高森自治会	樹高m20m、胸高周り10m
県	39	記	天	間瀬枕状熔岩		S36.3.20	西蒲区間瀬	新潟市	
県	40	記	天	八珍柿原木	1本	S37.3.29	秋葉区古田	個人	樹高m16m、胸高周り2m
県	41	記	天	賀茂神社の大ケヤキ	1本	S42.3.25	江南区木津	賀茂神社	高さm11m、胸高周囲6.4m
市	1	有	建	木場八幡宮本殿	1棟	S48.4.15	西区木場	木場八幡宮	江戸
市	2	有	建	阿部家仏間	1棟	S48.4.15	西区黒島	個人	江戸
市	3	有	建	長徳寺の山門	1棟	S49.3.23	西蒲区横戸	長徳寺	天保9年
市	4	有	建	善養寺の山門	1棟	S49.3.23	西蒲区熊谷	善養寺	文政元年
市	5	有	建	新光寺山門	1棟	S50.10.1	西蒲区高野宮	新光寺	享保年間
市	6	有	建	横越組大庄屋建部尚行の碑	1基	S51.6.20	江南区横越東町	個人	江戸末期
市	7	有	建	諏訪神社本殿	1棟	S53.4.1	西区金巻	諏訪神社	江戸
市	8	有	建	妙蓮寺山門	1棟	S53.4.14	秋葉区東島	妙蓮寺	文政9年
市	9	有	建	満徳寺経堂	1棟	S55.7.16	南区大別當	満徳寺	天保14年
市	10	有	建	福浄寺本堂	1棟	S56.5.25	西区板井	福浄寺	江戸
市	11	有	建	善光寺如来堂	1棟	H8.10.16	西蒲区善光寺	善光寺	明和8年
市	12	有	建	愛宕神社本殿・拝殿	2棟	H13.11.3	中央区古町通	愛宕神社	18世紀
市	13	有	建	法淳寺本堂	1棟	H13.11.3	北区濁川	法淳寺	17世紀末期
市	14	有	建	真光寺太子堂	1棟	H13.11.3	江南区松山	真光寺	安永7年
市	15	有	建	復原 澤将監の館 母屋・土蔵・表門	3棟	H16.1.20	西蒲区打越甲	新潟市	平成6年復原
市	16	有	建	旧小澤家住宅 主屋・新座敷・離れ座敷他	7棟	H18.8.24	中央区上大川前通	新潟市	明治前期 （明治末期増改築）
市	17	有	絵	絹本着色地藏菩薩像	1幅	S37.3.29	西蒲区巻甲	安養寺	平安
市	18	有	絵	絹本着色不動明王二童子像	1幅	S38.3.28	西蒲区巻甲	個人	室町

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
市	19	有	絵 (書)	大黒天図 五十嵐凌明筆 竹内式部賛	1幅	S49.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	江戸中期
市	20	有	絵	五十嵐凌明筆 三十六歌仙図 扁額	1面	S49.11.3	中央区西大畑町 新潟大神宮内	新潟大神宮	江戸中期
市	21	有	絵	顕如上人親鸞聖人絵像裏書	2巻	S50.9.16	西蒲区曽根	個人	江戸初期
市	22	有	絵	行田魁庵筆 「新潟入船之図」	1幅	S51.11.2	中央区柳島町 歴史博物館内	個人・新潟市	明治4年
市	23	有	絵	五姓田芳柳筆 「新潟萬代橋」図	1幅	S53.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	明治21年
市	24	有	絵	宗賢寺歴世住職肖像画	19幅	S54.2.9	江南区横越東町	宗賢寺	元文4年
市	25	有	絵	本間家懲震恣鑑（文政地震画帖）	1冊	S55.3.22	秋葉区市之瀬	個人	文政11年以降
市	26	有	絵	長井雲坪筆 四季山水図 六曲屏風	1双	S55.11.1	中央区柳島町 歴史博物館内	個人・新潟市	明治25年
市	27	有	絵	山論裁定絵図と山論関係記録	絵図4面記録 21点	S56.5.27	秋葉区金津	個人	元禄年間
市	28	有	絵	普談寺絵馬	2枚 (1対)	S57.2.17	秋葉区朝日	普談寺	江戸初期
市	29	有	絵	五姓田芳柳筆 八木朋直肖像	1幅	S57.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	明治20年
市	30	有	絵	五姓田芳柳筆 鈴木長蔵肖像	1面	S57.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	明治18年
市	31	有	絵	五姓田芳柳筆 帆橋成林	1面	S57.11.3	中央区礎町通	個人	明治
市	32	有	絵	書画帖	3冊	H3.3.18	秋葉区新保	個人	安政3年
市	33	有	絵	絵馬（頼光入山の図・虎と松・三十六歌仙）	3点	H5.8.1	江南区東本町	亀田諏訪社	江戸
市	34	有	絵	味方諏訪神社 献詠詩歌	3点	H8.12.26	南区味方	味方自治会	寛延4年
市	35	有	彫	木造阿弥陀如来立像	1躯	S37.3.29	西蒲区潟頭	個人	平安
市	36	有	彫	木造角海浜聖観世音菩薩像	1躯	S42.3.30	西蒲区五ヶ浜	新潟市・ 五ヶ浜自治会	江戸
市	37	有	彫	聖観音像	1躯	S48.3.30	西蒲区茨島	茨島観音講	元文期以前
市	38	有	彫	木造地藏菩薩立像	1躯	S50.2.24	南区庄瀬	潮山寺	16世紀後半
市	39	有	彫	三十三観音像	33躯	S50.10.1	西蒲区打越	浦川講中	承応元年
市	40	有	彫	天正の狛犬	1対	S50.10.1	西蒲区打越	浦川講中	不明
市	41	有	彫	善養寺の阿弥陀如来像	1躯	S55.4.1	西蒲区熊谷	善養寺	平安
市	42	有	彫	木造阿弥陀如来立像	1躯	S55.7.16	南区上曲通	梵行寺	室町初期
市	43	有	彫	木造聖観音菩薩立像	1躯	S58.3.22	江南区横越上町	観音小路氏子中	室町
市	44	有	彫	地藏菩薩像	1躯	S61.9.17	江南区砂山	砂崩地藏講	江戸初期
市	45	有	彫	亀田八景 版木	5枚	H5.8.1	江南区茅野山 江南区郷土資料館内	新潟市	弘化4年
市	46	有	彫	善光寺如来堂本尊	3躯	H8.10.16	西蒲区善光寺	善光寺区長	室町～江戸期
市	47	有	彫	光明院木造薬師如来像	1躯	H14.3.26	江南区木津	光明院	平安～鎌倉期
市	48	有	彫	木造如来座像	1躯	H14.12.25	西蒲区岩室温泉	岩室どん坂 阿弥陀講中	鎌倉後期～南北朝前期
市	49	有	彫	木造聖観音坐像	1躯	H30.3.14	西蒲区竹野町	金仙寺	鎌倉末期
市	50	有	工	古瀬戸鉄釉瓶子	1口	S36.3.16	西蒲区巻甲 巻郷土資料館内	新潟市	鎌倉末期
市	51	有	工	誕生釈迦仏立像	1躯	S45.4.1	西区板井	個人	不明
市	52	有	工	刀装エノ拵え	1点	S47.3.30	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	不明
市	53	有	工	鰐口 貞治七戊申年銘 附 天保十一年丹羽思亭拓本識語1幅	1口	S51.11.2	中央区沼垂東	沼垂白山神社	貞治7年
市	54	有	工	刀剣	2振	S52.3.22	南区西白根	個人	桃山期
市	55	有	工	赤絵花菱唐草文灯籠	1対	S58.3.31	北区太子堂	上宮社・ 太子堂自治会	明治
市	56	有	工	武者絵深鉢	1点	S58.3.31	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	明治
市	57	有	工	鍍金装笈	1点	H7.9.12	西蒲区石瀬	青龍寺	室町末期
市	58	有	工	山崎興野地内出土の懸仏	2躯	H17.2.9	南区下山崎・南区山崎興野	個人	室町～戦国期
市	59	有	工	色絵金彩梅鶯松蟬図花瓶	2点	H17.3.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	明治
市	60	有	工	染付藻魚図平鉢	1点	H17.3.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	明治
市	61	有	書	良寛書 双幅「いろは・一二三」	2幅	S35.2.12	西蒲区松野尾	個人	江戸
市	62	有	書	良寛書 振仮名付十大願文	1巻	S37.3.29	西蒲区巻甲	個人	江戸
市	63	有	書	日寿筆 祖書綱要冊略稿本	7冊	S38.3.30	西蒲区角田浜	妙光寺	江戸

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
市	64	有	書	懐旧歳時記	2冊	S41.3.29	西蒲区巻甲	個人	明治9年
市	65	有	書	良寛書 長谷川家法名	1幅	S42.3.30	西蒲区角田浜	個人	江戸
市	66	有	書	松丘立生詩歌集	1冊	S43.3.8	西蒲区巻甲	個人	江戸期
市	67	有	書	館柳遺品（書翰・印刻・看板・墨書）	一括	S45.3.27	東区河渡	株式会社 養玲社	江戸期
市	68	有	書	水沢新田村御検地帳並に古文書	一括	S48.3.30	西蒲区三方 湯東歴史民俗資料館内	新潟市	承応年間～明治10年
市	69	有	書	下大原村御検地帳並に地図	一括	S48.3.30	西蒲区三方 湯東歴史民俗資料館内	新潟市	享保11年
市	70	有	書	白根紙鴛合戦見聞記	1巻	S48.4.12	南区白根	個人	弘化4年
市	71	有	書	竹内式部書 「松」一字 五言対句	1幅	S49.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	江戸中期
市	72	有	書	竹内式部書 一行 白圭之玷云々	1幅	S49.11.3	中央区西大畑町	個人	江戸中期
市	73	有	書	竹内式部筆 三宅島流人罪名帳 断簡	1枚	S49.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	明和4年
市	74	有	書	五之上村御検地帳 御米印帳	2冊	S51.3.9	西蒲区五之上	個人	慶安2年・慶応4年
市	75	有	書	蓮徳寺一切経	1,160冊	S53.4.14	秋葉区西島	蓮徳寺	寛文年間
市	76	有	書	獅子踊り歌詞秘書	5巻	S55.3.22	秋葉区日宝町 新津図書館内	小戸下組獅子保存会 ・新潟市	文化10年
市	77	有	書	万福寺九世悦巖素圻遺墨	5点	S61.3.28	西蒲区仁箇	万福寺	江戸
市	78	有	書	亀田鵬斎書 山茶之亭扁額	1面	S61.3.28	西蒲区松野尾	個人	文化7年
市	79	有	書	小須戸町屋舗絵図面	1枚	H3.3.18	秋葉区小須戸	個人	文政9年
市	80	有	書	本住寺棟札	7枚	H3.3.18	秋葉区横川浜	本住寺	永祿元年
市	81	有	書	小泉蒼軒文庫	一括	H5.1.20	秋葉区日宝町 新津図書館内	個人・新潟市	江戸末期
市	82	有	書	真宗本山講中「御書」	3巻	H5.12.14	西蒲区打越甲 澤将監の館内	打越婦人講他・ 新潟市	文政8年
市	83	有	書	香月堂鶯宿関係資料 (盛弘社芭蕉講軸物ほか)	19種	H6.2.18	西蒲区曾根 西川学習館内	新潟市	大正～昭和5年
市	84	有	書	香月堂鶯宿関係資料 (山口嵐更半折ほか)	4点	H6.2.18	西蒲区曾根 西川学習館内	新潟市	大正～昭和5年
市	85	有	書	年中故事	6冊	H6.3.30	西蒲区巻甲 巻郷土資料館内	新潟市	弘化3～慶応2年
市	86	有	書	良寛書 有則堂	1幅	H6.3.30	西蒲区角田浜	願正寺	江戸
市	87	有	書	巻菱湖筆 司空表聖詩品二十四章	2帖	H11.9.29	西蒲区巻甲 巻郷土資料館内	新潟市	江戸
市	88	有	書	武田信玄・勝頼の感状	1幅(2点)	H16.1.20	西蒲区打越甲 澤将監の館内	個人・新潟市	16世紀
市	89	有	書	有願筆の屏風・掛軸	28点	H17.2.9	南区新飯田ほか	個人	江戸末期
市	90	有	古	慶長五年巻村検地帳	1冊	S36.3.16	西蒲区巻甲 巻郷土資料館内	新潟市	慶長5年
市	91	有	古	越前国小橋屋村御検地帳	1冊	S38.3.30	西蒲区巻甲	個人	慶長3年
市	92	有	古	慶安三年蒲原郡松尾村人御改帳	1冊	S43.3.8	西蒲区松山新田	個人	慶安3年
市	93	有	古	笛木家文書	400点	S44.3.15	西蒲区中郷屋	個人	江戸
市	94	有	古	籠島黒印状	1幅	S40.3.24	西蒲区巻甲	城願寺	天正18年
市	95	有	古	延宝三年乙卯・ 地境出入御裏書絵図並に附帯文書1通	1巻	S48.3.30	西蒲区巻甲 巻郷土資料館内	新潟市	江戸
市	96	有	古	倉嶋家文書	677点	S48.6.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	江戸～
市	97	有	古	年貢割付状及皆済目録	181通	S50.9.16	西蒲区真田	個人	江戸～明治初期
市	98	有	古	承応3年～明治初年庄屋文書	269通	S52.3.4	西蒲区善光寺	個人	江戸～明治初期
市	99	有	古	真柄家石油関係資料	70点	S53.4.14	秋葉区柄目木・秋葉区日宝町 新津図書館内	個人・新潟市	慶長18年～明治33年
市	100	有	古	澤田家能代川堰関係資料	26点	S53.4.14	秋葉区草水町	個人	天正8年～昭和16年
市	101	有	古	土屋家文書	607点	S54.2.27	西蒲区西汰上	個人	江戸～明治中期
市	102	有	古	黒島村諸色書上帳	1冊	S54.4.1	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	江戸
市	103	有	古	高橋（武田）源助の書簡	1通	S54.4.1	西区木場	個人	江戸
市	104	有	古	小山家所蔵古文書	58点	S57.7.21	西区大野町	個人	江戸
市	105	有	古	梨栄造有秘鑑及び証文	1式	H2.6.28	南区東萱場	個人	天明2年
市	106	有	古	石井家文書	88点	H5.5.27	江南区沢海	一般財団法人 北方文化博物館	江戸～明治期
市	107	有	古	割野新田開発許可状	1枚	H5.8.1	江南区茅野山 江南区郷土資料館内	個人	寛永13年
市	108	有	古	越前浜村立許可状	1枚	H6.3.30	西蒲区巻甲	個人	慶長16年

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
市	109	有	古	澤家文書	552点	H16.1.20	西蒲区打越甲 澤将監の館内	新潟市	江戸～大正
市	110	有	古	寛政二庚戌年福島湯絵図	1点	H17.3.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	個人・新潟市	寛政2年
市	111	有	考	布目遺跡出土尖底深鉢形土器	1個	S38.3.30	東京国立博物館	個人	縄文前期
市	112	有	考	自然釉甕	1個	S41.3.29	西蒲区巻甲 巻郷土資料館内	竹野町地区所有・ 新潟市	鎌倉末期
市	113	有	考	緒立土器	一括	S47.3.30	西区木場 文化財センター内	新潟市	縄文～中世
市	114	有	考	五ヶ浜須恵器甕	1個	S51.3.9	西区木場 文化財センター内	五ヶ浜地区所有・ 新潟市	平安
市	115	有	考	中才遺跡出土品	一括	S52.3.4	西区木場 文化財センター内	新潟市	平安
市	116	有	考	市内遺跡出土品	72点	S58.3.31	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	縄文～平安
市	117	有	考	鳥屋遺跡発掘調査出土品	一括	S59.4.1	西区木場 文化財センター内	新潟市	縄文
市	118	有	考	上黒山遺跡出土品	一括	S59.4.1	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	縄文～古墳
市	119	有	考	本町中世石仏	1体	H5.1.20	秋葉区新津本町	福王寺	中世
市	120	有	考	大鹿諏訪神社中世石仏	1体	H5.1.20	秋葉区大鹿	諏訪神社	中世
市	121	有	考	盛岩寺中世石仏	3体	H5.1.20	秋葉区大安寺	盛岩寺	中世
市	122	有	考	馬場屋敷遺跡出土品	3,017点	H5.7.14	西区木場 文化財センター内	新潟市	鎌倉後期
市	123	有	考	的場遺跡出土品（県指定分は除く）	一括	H5.11.3	西区木場 文化財センター内	新潟市	縄文～中世
市	124	有	考	笹山前遺跡出土縄文時代の深鉢形土器	1点	H10.3.24	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	縄文
市	125	有	考	新谷遺跡出土浅鉢形土器	1点	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	縄文前期
市	126	有	考	南赤坂遺跡出土「の」字状垂飾	1点	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	縄文前期～中期
市	127	有	考	大沢遺跡出土中前期前葉縄文土器	12点	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	縄文中期
市	128	有	考	上ノ原遺跡採集石棺	1点	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	個人・新潟市	縄文後期
市	129	有	考	上ノ原遺跡出土「深靴」土偶	1点	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	縄文後期
市	130	有	考	御井戸遺跡出土縄文時代木製品	9点	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	縄文晩期
市	131	有	考	山谷古墳出土品	一括	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	古墳前期
市	132	有	考	南赤坂遺跡出土古墳時代北方系土器 （県指定分は除く）	一括	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	古墳前期
市	133	有	考	前平野窯跡出土須恵器	1点	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	平安
市	134	有	考	沙山遺跡出土中世釣針	一括	H11.9.29	西区木場 文化財センター内	新潟市	室町
市	135	有	考	葛塚遺跡出土朱塗り線刻物画土器	1個体	H14.3.8	西区木場 文化財センター内	新潟市	古墳前期
市	136	有	歴	検見燵	1脚	S38.3.28	西蒲区巻甲 巻郷土資料館内	新潟市	江戸
市	137	有	歴	豊栄市役所文書	6,834点	S46.8.30 H17.3.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	江戸～
市	138	有	歴	佐藤家文書	3,112点	S46.8.30 H17.3.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	江戸～明治初期
市	139	有	歴	六灯ランプ （旧新潟税関使用シャンデリア）	1基	S49.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	東京税関・新潟市	19世紀中期
市	140	有	歴	浦高札	2枚	S49.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	個人・新潟市	明治2年
市	141	有	歴	松平忠輝関係文書	2通	S49.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	慶長15年
市	142	有	歴	堀直奇文書	4通	S49.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	元和2～3年
市	143	有	歴	沢海日枝神社の大幟	1組	S51.6.20	江南区沢海	日枝神社・ 北方文化博物館	文政8年
市	144	有	歴	船屋看板 良寛書刻字	5枚	S51.11.3	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	江戸後期
市	145	有	歴	横越島絵図	1枚	S53.11.3	江南区割野	個人	寛永16年
市	146	有	歴	門田ハザ並木	1個所	S58.2.18	西蒲区門田	新潟市	
市	147	有	歴	片柳礼三の碑（墓）	1基	S58.2.18	西蒲区羽黒	新潟市	明治4年
市	148	有	歴	小杉八幡宮の大幟	1組	S63.4.12	江南区小杉	八幡宮	文政8年
市	149	有	歴	卯八郎請の御領の旗	1流	H17.2.0	西蒲区三方 潟東歴史民俗資料館内	新潟市	宝暦3年
市	150	有	歴	朝日本多家の双芳碑	1基	H5.1.20	秋葉区朝日	個人	明治40年
市	151	有	歴	秋葉神社の祈祥碑	1基	H5.1.20	秋葉区秋葉	秋葉神社	寛政11年
市	152	有	歴	笹川家平十郎宅絵図面	1枚	H5.5.31	南区味方 曽我平澤記念館内	新潟市	不明
市	153	有	歴	俳諧三祖塔	1組（3基）	H5.7.6	秋葉区中村	個人	寛政5年

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
市	154	有	歴	北辰隊関係資料	132点	H9.3.31 H17.3.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	明治元年
市	155	有	歴	木崎小作争議関係資料	675点	H9.3.31 H17.3.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	大正後期
市	156	有	歴	浄福寺法宝物	26点	H11.9.29	西蒲区竹野町	浄福寺	鎌倉～安土桃山期
市	157	有	歴	萬巻楼の額、聯、萬巻楼記	3点	H14.9.10	秋葉区中村	個人	江戸
市	158	有	歴	家相図	1枚	H16.1.20	西蒲区打越甲 澤将監の館内	個人・澤将監の館	江戸後期
市	159	有	歴	旧鑑郷村道路元標・旧曾根村道路元標	2基	H16.6.4	西蒲区天竺堂・西蒲区曾根	新潟県	大正11年以降
市	160	有	歴	旧升潟村道路元標	1基	H16.6.4	西蒲区大潟	新潟市	大正11年以降
市	161	有	歴	曾根村道図	1軸	H16.6.4	中央区学校町通 歴史文化課内	新潟市	昭和22年
市	162	有	歴	鑑郷村道路線調書及び鑑郷村道図 (大字別)	1式	H16.6.4	西蒲区曾根 西川学習館内	新潟市	大正9年
市	163	有	歴	曾根郷耕地整理組合第一区整理略図	1軸	H16.7.30	西蒲区曾根	個人	昭和25年
市	164	有	歴	横田切れの記録(腰板)	1枚	H17.2.25	西蒲区三方 潟東歴史民俗資料館内	新潟市	明治29年
市	165	有	歴	下興野新田絵図	4点	H17.3.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	享保～・明治
市	166	有	歴	綿向神社勧請石柱	1点	H17.3.18	北区内沼	内沼神社	元文元年
市	167	無	芸	日本舞踊市山流		H15.7.16	中央区古町通	市山七十世	江戸後期～
市	168	無	工技	白根紋り		H5.7.14	南区白根	サークルしろね紋り	江戸後期～
市	169	民	有民	民家旧宅(旧武田家住宅)	1棟	S45.4.1	西区木場 文化財センター内	新潟市	江戸
市	170	民	有民	篠原幸三郎家住宅	1棟	S46.3.23	西蒲区五ヶ浜	新潟市	明治初期、昭和53年移築
市	171	民	有民	せんば	1点	S47.3.30	西区木場 文化財センター内	新潟市	不明
市	172	民	有民	湊稲荷神社願懸け高麗犬	1対	S55.11.1	中央区稲荷町	湊稲荷神社	嘉永7年
市	173	民	有民	満願寺稲架木並木	1箇所	S57.2.17	秋葉区満願寺	満願寺集落26名・ 新潟市	
市	174	民	有民	金刀比羅神社難船彫刻絵馬	1面	S59.11.3	中央区寄合町	金刀比羅神社	明治30年
市	175	民	有民	伊多井神社の天井絵	1面	S61.5.1	西区板井	伊多井神社	慶応3年
市	176	民	有民	のぞきからくり	一括	S62.3.27	西蒲区巻甲 巻郷土資料館内	個人・新潟市	大正
市	177	民	有民	高礼(基利支丹札)	1点	H3.4.1	西区木場 文化財センター内	新潟市	江戸中期
市	178	民	有民	松前藩主薬箱	1点	H3.4.1	中央区柳島町 歴史博物館内	新潟市	江戸
市	179	民	有民	畜動舎	1棟	H3.7.22	西区木場 文化財センター内	新潟市	
市	180	民	有民	角兵衛地蔵尊	2躯	H4.12.10	南区月潟	月潟地区	江戸初期
市	181	民	有民	箴箱・箴棒	1個・23本	H5.2.20	西蒲区曾根 西川学習館内	新潟市	万延2年
市	182	民	有民	福島潟民俗資料	401点	H9.3.31 H17.3.18	北区嘉山 北区郷土博物館内	新潟市	
市	183	民	有民	越後毒消コレクション	一括	H11.9.29	西蒲区巻甲 巻郷土資料館内	新潟市	江戸末期～昭和期
市	184	民	有民	鰯湯で使用されていた漁労・狩猟用具	50点	H17.2.25	西蒲区三方 潟東歴史民俗資料館内	新潟市	明治～昭和期
市	185	民	民芸	内沼獅子舞	1	S38.1.12	北区内沼	内沼獅子舞保存会	享保期以降～
市	186	民	民芸	内島見の神楽	1	S38.1.12	北区内島見	内島見神楽保存会	明治初期～
市	187	民	民芸	高森の神楽	1	S38.1.12	北区高森	高森いざや 神楽保存会	宝永年間～
市	188	民	民芸	他門の神楽	1	S38.1.12	北区葛塚	他門神楽保存会	宝暦年間～
市	189	民	民芸	嘉山の神楽	1	S38.1.12	北区嘉山	嘉山神楽保存会	寛政から文政年間～
市	190	民	民芸	葛塚盆踊	1	S38.1.12	北区葛塚	郷土民謡保存会	明治中期～
市	191	民	民芸	正尺の神楽	1	S40.7.15	北区葛塚	正尺神楽保存会	天保年間～
市	192	民	民芸	長場の神楽	1	S38.1.12	北区長場	長場の神楽保存会	明治中期～
市	193	民	民芸	和納三社神社祭礼行事	7	S43.9.12 S50.2.22 H15.3.12	西蒲区和納	和納三社神社氏子	花火：天保年間～ 棒道い：大正年間～
市	194	民	民芸	竹野町神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区竹野町	竹野町神楽舞保存会	文化から文政年間～
市	195	民	民芸	巻神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区巻甲	巻神楽保存会	江戸期～
市	196	民	民芸	稲島神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区稲島	稲島神楽保存会	江戸期～
市	197	民	民芸	松山神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区松山	松山神楽保存会	明治39年～

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
市	198	民	民芸	松野尾神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区松野尾	松野尾神楽舞保存会	起源不詳、昭和31年再興
市	199	民	民芸	棒踊り	1	S45.4.1	西区木場	黒埼地区郷土芸能保存会木場支部	
市	200	民	民芸	河井神楽舞	1	S50.4.25	西蒲区河井	河井神楽保存会	明治初期～
市	201	民	民芸	布目神楽舞	1	S50.4.25	西蒲区布目	布目神楽保存会	江戸～、昭和43年再興
市	202	民	民芸	国見神楽舞	1	S51.3.9	西蒲区国見	国見南地区自治会	江戸～、大正期復活
市	203	民	民芸	潟頭神楽舞	1	S51.6.5	西蒲区潟頭	潟頭神楽舞保存会	明治初期～
市	204	民	民芸	小戸下組獅子踊り	1	H5.1.20	秋葉区小戸下組	小戸下組獅子保存会	文化年間～
市	205	民	民芸	赤館神楽舞	1	H5.3.30	西蒲区赤館	赤館神楽舞保存会	
市	206	民	民芸	白根の獅子舞	1	H16.4.6	南区白根魚町	魚町神楽連	18世紀初期
市	207	民	民芸	角兵衛獅子	1	H25.4.15	南区月潟	角兵衛獅子保存会	江戸中期
市	208	記	史	上城跡		S35.2.12	西蒲区竹野町	新潟市	室町
市	209	記	史	下城		S35.2.12	西蒲区竹野町	個人・新潟市	室町
市	210	記	史	館ノ腰		S36.3.16	西蒲区馬堀	白山神社	室町
市	211	記	史	巻館跡		S40.3.24 S57.3.26	西蒲区巻甲	新潟市	室町
市	212	記	史	天神山城址		S43.9.12	西蒲区石瀬・岩室温泉・間瀬	個人	室町
市	213	記	史	松岳山城址		S43.9.12	西蒲区岩室温泉	和納	室町
市	214	記	史	樋切遺跡		S48.3.30	西蒲区五之上	個人	弥生～平安
市	215	記	史	間瀬銅山跡	7	S49.6.1	西蒲区間瀬	新潟市	江戸～大正9年
市	216	記	史	煮坪	1個所	S50.9.4	秋葉区草水町	個人・新潟市	慶長13年
市	217	記	史	幸清水	1個所	S50.12.2	秋葉区秋葉	新潟市	文化4年
市	218	記	史	上ノ原遺跡		S51.3.9	西蒲区竹野町	竹野町他	縄文後期～晩期
市	219	記	史	山谷古墳		S60.1.30	西蒲区福井	個人	古墳前期
市	220	記	史	東島城跡	1個所	S60.3.4	秋葉区東島字城ヶ平	新潟市他	中世
市	221	記	史	桜清水	1個所	S61.1.14	秋葉区中村	那加武良神社	弘安元年
市	222	記	史	八幡山遺跡群	1群	H5.1.20	秋葉区古津字八幡腰ほか	新潟市	縄文～平安
市	223	記	史	ひさかき清水	1個所	H5.1.20	秋葉区田家	妙本寺	享保年間
市	224	記	史	手掘石油井戸	1個所	H5.1.20	秋葉区田家字山親割	新潟市	明治10年頃
市	225	記	史	馬堀用水遺跡		H8.11.28	西蒲区馬堀	個人	馬堀用水・長恩院石塔江戸
市	226	記	名	判官舟かくし	1個所	S42.3.30	西蒲区角田浜	角田浜	海蝕洞
市	227	記	天	水芭蕉自生地	1個所	S35.2.12	西蒲区仁箇	個人	
市	228	記	天	行人塚の大櫓	1本	S39.7.23	西蒲区熊谷	烏方集落会	樹高13.5m、胸高周囲6.4m
市	229	記	天	稲島の椿谷自然林	1個所	S44.3.15	西蒲区稲島	稲島	
市	230	記	天	稲島の大杉	1本	S44.3.15	西蒲区稲島	稲島	樹高22m、胸高周囲6m
市	231	記	天	ばしくるもん、つばくさ		S47.2.26	西蒲区間瀬	新潟市	
市	232	記	天	旧入徳館小のたぶの木	1本	S48.3.30	西蒲区峰岡	新潟市	樹高7m、胸高周囲4.1m 樹齢約200年
市	233	記	天	上堰潟	1個所	S49.3.23	西蒲区松野尾	国有地	
市	234	記	天	山口家の大たぶの木	1本	S49.3.23	西蒲区山口新田	個人	樹高15m、胸高周囲3m
市	235	記	天	コウヤマキ（高野槇）	1本	S50.7.12	江南区藤山	個人	樹高20m、胸高周囲3.4m
市	236	記	天	スダジイ（しいの木）	1本	S51.3.9	西蒲区松野尾	仙城院	樹高10.5m、胸高周囲4.6m
市	237	記	天	曾根神社境内大櫓	1本	S54.2.27	西蒲区曾根	曾根神社	樹高20m、胸高周囲4.3m
市	238	記	天	大櫓	1本	S57.12.24	西蒲区曾根 曾根小学校内	新潟市	樹高6m、胸高周囲1.8m
市	239	記	天	長周寺の老姫小松	1本	H1.7.20	西蒲区大原	長周寺	樹高4.7m、胸高周囲2m
市	240	記	天	長沼家の老五葉松	1本	H1.7.20	西蒲区称名	個人	樹高5.6m、胸高周囲5.6m
市	241	記	天	百日紅（サルスベリ）	1本	H1.9.8	南区大郷	個人	樹高11m、胸高周囲1.9m
市	242	記	天	普談寺の大杉	1本	H5.1.20	秋葉区朝日	普談寺	樹高30m、胸高周囲5.3m

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
市	243	記	天	真柄家の大樺	1本	H5.1.20	秋葉区柄目木	個人・新潟市	樹高16m、胸高周囲7.8m
市	244	記	天	福王寺の大赤檜	1本	H5.1.20	秋葉区山谷町	福王寺	樹高15m、胸高周囲2.9m
市	245	記	天	小戸の大花梨	1本	H5.1.20	秋葉区小戸下組	個人	樹高12m、胸高周囲1.8m
市	246	記	天	北潟の大譲葉	1本	H5.1.20	秋葉区北潟	個人	樹高13m、胸高周囲2.1m
市	247	記	天	子成場柿	1本	H5.1.20	秋葉区浦興野	個人	樹高11m、胸高周囲1.7m
市	248	記	天	石崎家の紅梅	1本	H5.1.20	秋葉区新津本町	個人	樹高9m、胸高周囲2.4m
市	249	記	天	犬四手叢林	1個所	H5.1.20	秋葉区金津	佐久那殿神社	樹齢約100～200年
市	250	記	天	椿林	1個所	H5.1.20	秋葉区朝日	個人	樹齢50～300年
市	251	記	天	らかんまき外	5本	H6.4.1	江南区荻曾根	個人	樹高9m（らかんまき）
市	252	記	天	つばき	1本	H6.4.1	江南区袋津	個人	胸高周囲1.5m
市	253	記	天	かや	1本	H6.4.1	江南区城山	個人	胸高周囲1.9m
市	254	記	天	大久保の大ケヤキ	1本	H12.5.26	北区大久保	神明社・大久保自治会	樹高24m、胸高周囲6.5m
市	255	記	天	お杉	1本	H15.11.12	西蒲区石瀬	大字石瀬	樹高22m、胸高周囲6.4m
市	256	記	天	大杉	1本	H16.8.11	西蒲区樋曾	日吉神社	樹高36m、胸高周囲6.1m
市	257	記	天	大樺	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	石瀬神社	樹高42m、胸高周囲5.2m
市	258	記	天	羅漢楨	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	青龍寺	樹高11.5m、胸高周囲2.7m
市	259	記	天	銀木犀	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	種月寺	樹高7m、胸高周囲1.5m
市	260	記	天	多宝山の樺	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	個人	樹高20m、胸高周囲2.9m
市	261	記	天	ご神木 樺	1本	H16.8.11	西蒲区和納	八幡神社（三社神社）	樹高8.5m、胸高周囲7.4m

凡 例 「種別欄」は、() 内の略号で表記。
有形文化財 建造物（建）、絵画（絵）、彫刻（彫）、工芸品（工）、書跡・典籍（書）、古文書（古）、考古資料（考）、歴史資料（歴）
無形文化財 芸能（芸）、工芸技術（工技）
民俗文化財 有形民俗文化財（有民）、無形民俗文化財の民俗芸能（民芸）、無形民俗文化財の風俗慣習（風）、無形民俗文化財の民俗技術（民技）
記念物 史跡（史）、名勝（名）、天然記念物（天）

(2) 新潟市所在の国登録文化財一覧表（令和2年3月31日現在）

No.	名 称	員数	登録年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
1	新津記念館	1棟	H10.4.21	中央区旭町通	公益財団法人新津記念館	昭和13年
2	北方文化博物館 主屋・大広間ほか	26棟	H12.4.28	江南区沢海	一般財団法人北方文化博物館	明治20年
3	太古山日長堂 主屋・仏蔵	2棟	H12.4.28	北区新崎	一般財団法人太古山日長堂	18世紀中期
4	佐野商店 店舗兼住宅	1棟	H12.4.28	中央区沼垂東	個人	昭和12年
5	二宮家住宅 主屋・農舎	2棟	H12.4.28	江南区俵柳	個人	大正7年
6	斎藤家住宅 主屋・土蔵	2棟	H12.4.28	中央区関屋本村町	株式会社斎藤不動産	明治初期
7	樋木酒造 店舗兼主屋・西・東酒蔵	3棟	H12.4.28	西区内野町	公益財団法人鶴友会	20世紀初期
8	木揚場教会	1棟	H12.4.28	中央区礎町通	木揚場教会	大正15年
9	行形亭 主屋ほか	10棟	H12.4.28	中央区西大畑町	株式会社行形亭	19世紀中期
10	鍋茶屋 主屋ほか	7棟	H12.4.28	中央区東堀通	合資会社鍋茶屋	明治43年
11	燕喜館（旧斎藤家住宅）主屋	1棟	H12.4.28	中央区一番堀通町	新潟市	明治41年
12	北方文化博物館新潟分館 主屋・洋館ほか	7棟	H12.4.28	中央区南浜通	一般財団法人北方文化博物館	明治28年頃
13	諸橋家住宅 主屋・土蔵	2棟	H13.11.20	江南区茗荷谷	個人	大正10年頃
14	飯田家住宅土蔵	1棟	H14.8.21	西区内野町	個人	明治22年
15	吉田家住宅 主屋・座敷棟・土蔵	3棟	H15.1.31	秋葉区大鹿	個人	明治16年
16	大橋屋 主屋及び土蔵	1棟	H15.7.1	中央区本町通	個人	昭和10年
17	亀田町上水道高架水槽	1棟	H15.7.1	江南区亀田水道町	新潟市	昭和8年
18	高島屋 主屋・土蔵・旧米蔵	3棟	H16.7.23	西蒲区岩室温泉	個人	宝暦5年
19	新潟大学 旭町学術資料展示館ほか	2棟	H17.11.10	中央区旭町通	国立大学法人新潟大学	昭和4年
20	旧第四銀行住吉町支店	1棟	H17.11.10	中央区柳島町	新潟市	昭和2年
21	妙光寺 三重小塔・山門・鐘楼	3棟	H18.3.2	西蒲区角田浜	妙光寺	18世紀後期
22	小林家住宅 主屋	1棟	H18.3.27	中央区南毘沙門町	個人	昭和13年
23	石本家住宅 主屋ほか	6棟	H19.12.5	江南区東本町	個人	明治34年～昭和初期
24	内島見 観音堂・仁王堂	2棟	H19.12.5	北区内島見	宗教法人養福寺	元治2年・明治34年
25	石動神社 本殿・拝殿	2棟	H20.7.8	北区白新町	宗教法人石動神社	寛政8年
26	古峯神社 本殿	1棟	H20.7.8	北区白新町	宗教法人石動神社	天保8年
27	稲荷神社 本殿・拝殿及び幣殿・神輿庫	3棟	H20.7.8	北区葛塚	宗教法人稲荷神社	文化12年
28	開市神社 拝殿	1棟	H20.7.8	北区葛塚	宗教法人稲荷神社	明治4年
29	原家住宅 主屋ほか	10棟	H28.8.1	江南区二本木	個人	明治35年～大正3年頃
30	敬覚寺本堂	1棟	H28.8.1	江南区酒屋町	宗教法人敬覚寺	大正8年
31	小松屋旅館 本館・広間棟・表座敷棟・奥座敷棟	4棟	H28.8.1	西蒲区岩室温泉	個人	大正3年～昭和32年
32	梅嶋家住宅 主屋	1棟	H29.10.27	中央区四ツ屋町	個人	昭和元年頃
33	旧白根配水塔	1棟	H30.5.10	南区上下諏訪木字川原	新潟市	昭和8年
34	中原家住宅 主屋ほか	5棟	H30.5.10	西区赤塚	個人	万延元年～昭和10年頃
35	高須家住宅 主屋・土蔵	2棟	R1.12.5	中央区上大川前通	個人	明治中期

２ 区別・ジャンル別文化財件数表（令和２年３月31日現在）

（１）区別

区名		主な旧市町村・地区	国指定	県指定	市指定	指定計	国登録	合計
1	北 区	豊栄市・北地区	2	1	25	28	6	34
2	東 区	中地区・東地区・石山地区	0	1	1	2	0	2
3	中央区	中央地区・東地区・南地区	11	15	27	53	14	67
4	江南区	亀田町・横越町・石山地区・南地区	1	3	17	21	7	28
5	秋葉区	新津市・小須戸町	3	8	37	48	1	49
6	南 区	白根市・味方村・月潟村	2	2	15	19	1	20
7	西 区	黒崎町・坂井輪地区・西地区	0	6	30	36	3	39
8	西蒲区	巻町・西川町・潟東村・中之口村・岩室村	2	5	109	116	3	119
合 計			21	41	261	323	35	358

（２）ジャンル別

種 別			国指定	県指定	市指定	指定計	国登録	合計
有形	建 造 物		5	1	16	22	35	57
	絵 画		1	3	18	22	0	22
	彫 刻		1	5	15	21	0	21
	工 芸 品		1	1	11	13	0	13
	書 跡 ・ 典 籍		1	3	29	33	0	33
	古 文 書		0	3	21	24	0	24
	考 古 資 料		1	11	25	37	0	37
	歴 史 資 料		0	5	31	36	0	36
無形	芸 能		0	0	1	1	－	1
	工 芸 技 術		0	0	1	1	－	1
民俗	有 形 民 俗		1	1	16	18	0	18
	無形民俗	風 俗 慣 習	0	1	0	1	－	1
		民 俗 芸 能	0	0	23	23	－	23
		民 俗 技 術	0	0	0	0	－	0
記念物	史 跡		4	2	18	24	0	24
	名 勝		2	1	1	4	0	4
	天 然 記 念 物		4	4	35	43	0	43
合 計			21	41	261	323	35	358

令和元年度 新潟市文化財調査概要

令和2年9月発行 (非売品)

編集・発行 新潟市教育委員会
(新潟市文化スポーツ部歴史文化課)
〒951-8550
新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL (025) 228-1000 (代表)

印刷 有限会社スタッフラン
〒950-0211
新潟市江南区横越川根町3丁目13-23
TEL (025) 385-5291

